

令和8年度 JRローカル線 維持・利用促進協議会 次第

日時：令和8年4月16日（木）14：00～15：30

場所：兵庫県2号館5階庁議室

1. 開 会

2. 議 題

(1) 各路線ワーキングチームの報告 . . . 資料1

(2) 広域的な取組 . . . 資料2

(3) 意見交換

3. 閉 会

【参考資料】

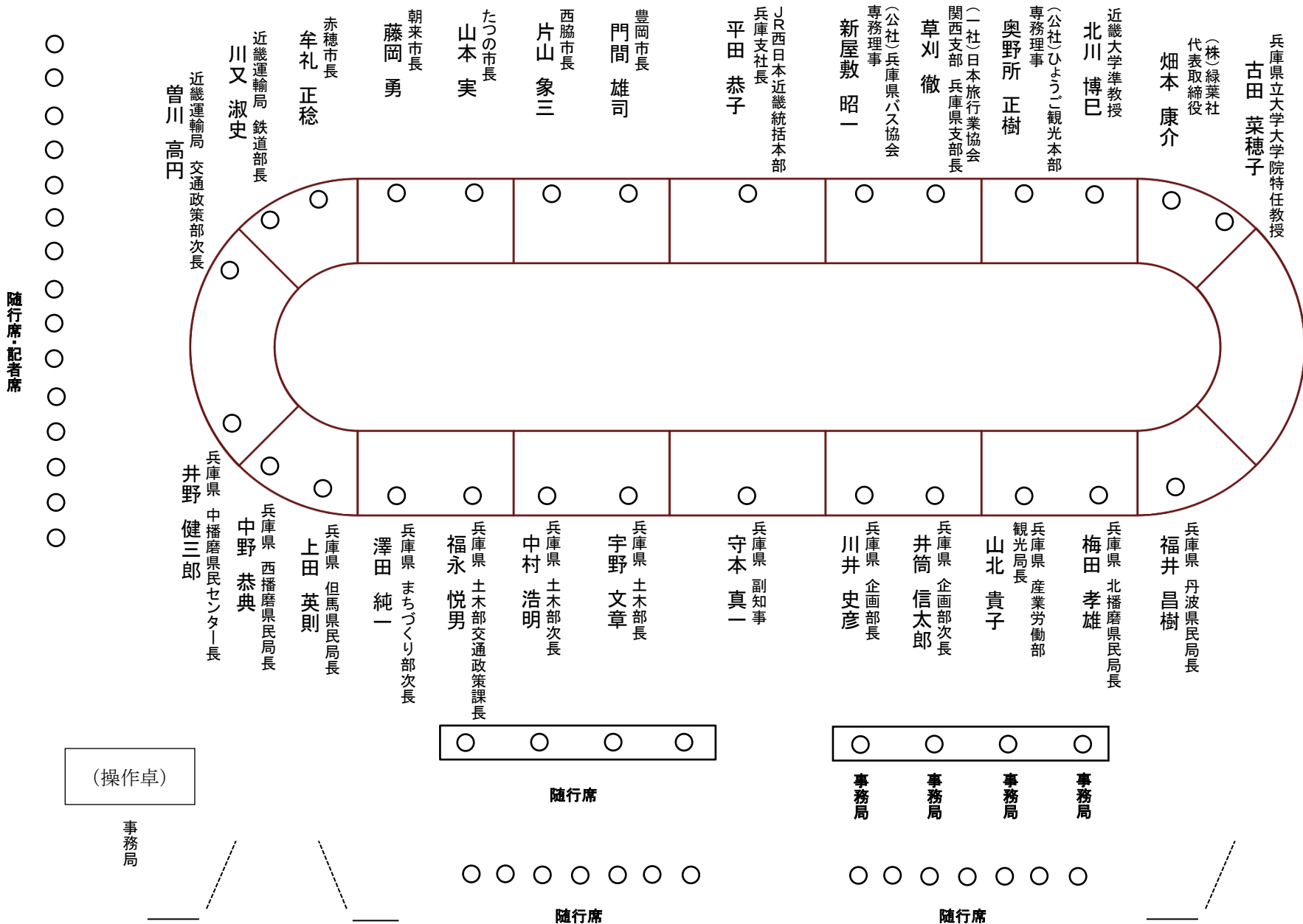
- ・各ワーキングチームの令和7年度 of 取組結果一覧 参考資料1
- ・JRローカル線 維持・利用促進協議会 設置要綱 参考資料2

区分	氏名	所属・役職	備考
WT代表 (沿線市町)	門間 雄司	豊岡市長 (山陰線WT代表)	
	片山 象三	西脇市長 (加古川線WT代表)	
	山本 実	たつの市長 (姫新線WT代表)	
	藤岡 勇	朝来市長 (播但線WT代表)	
	牟礼 正稔	赤穂市長 (赤穂線代表)	
JR西日本	平田 恭子	近畿統括本部兵庫支社長	
交通事業者	長尾 真	(公社)兵庫県バス協会長	※代理出席：専務理事 新屋敷 昭一
観光事業者	草刈 徹	(一社)日本旅行業協会関西支部 兵庫県支部長	
有識者	交通	北川 博巳	近畿大学准教授
	まちづくり	畑本 康介	(株)緑葉社代表取締役
	観光	古田 菜穂子	兵庫県立大学大学院特任教授
ひょうご観光本部	奥野所 正樹	専務理事	
兵庫県	守本 真一	副知事	
	川井 史彦	企画部長	
	宇野 文章	土木部長	
	井筒 信太郎	企画部次長	
	中村 浩明	土木部次長	
	福永 悦男	土木部交通政策課長	
	山北 貴子	産業労働部観光局長	
	澤田 純一	まちづくり部次長	

(オブザーバー)

近畿運輸局	平山 耕史	交通政策部長	※代理出席：交通政策部次長 曾川 高円
	川又 淑史	鉄道部長	
WT事務局	上田 英則	但馬県民局長 (山陰線・播但線)	
	梅田 孝雄	北播磨県民局長 (加古川線)	
	中野 恭典	西播磨県民局長 (姫新線・赤穂線)	
	井野 健三郎	中播磨県民センター長 (播但線・姫新線)	
	福井 昌樹	丹波県民局長 (加古川線)	

配席図

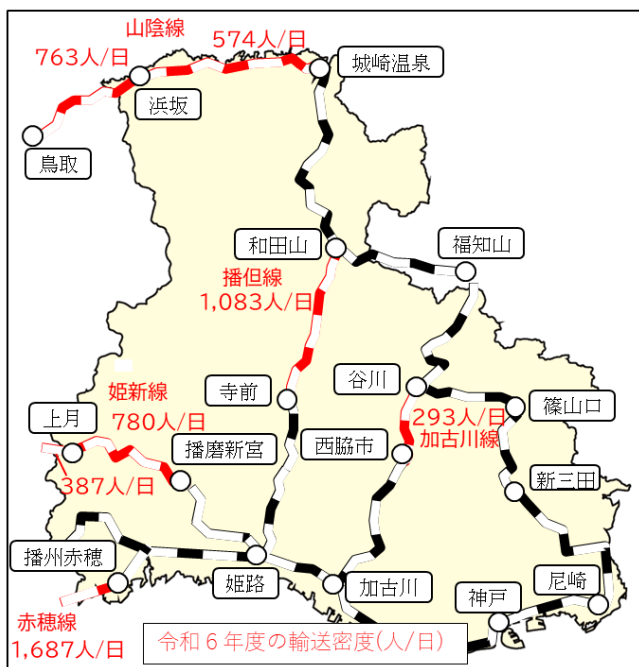


JRローカル線 維持・利用促進協議会 開催経緯

○協議会(RT)の開催経緯

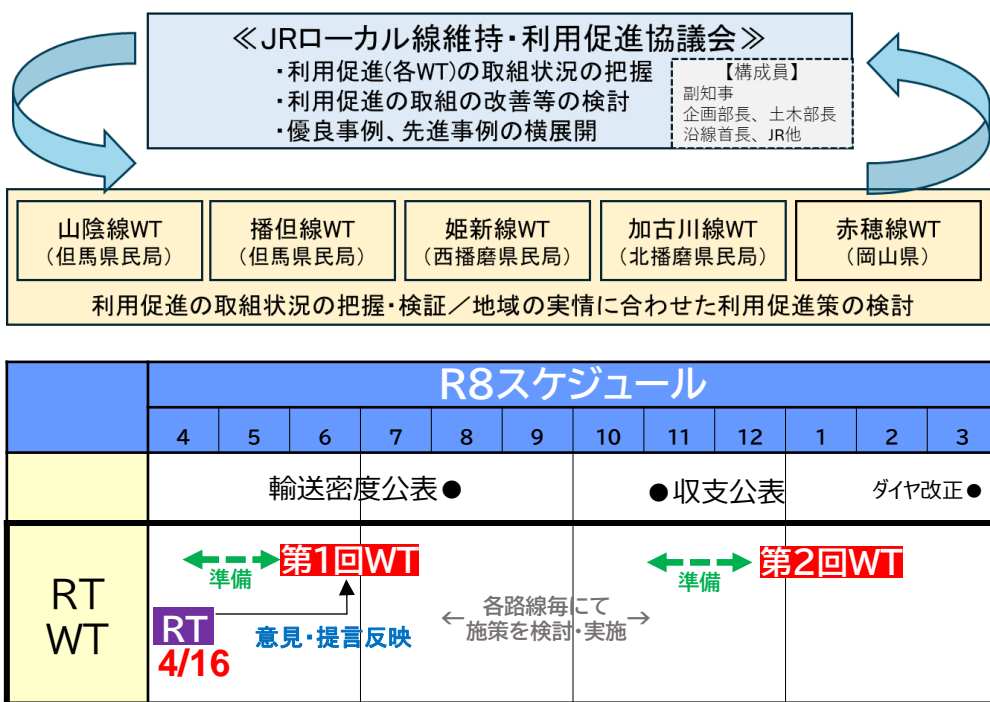
令和4年度	4月11日	JRが輸送密度2000人/日未満の収支公表
	同月 27日	知事定例会見にて「議論をする場」について発表
	6月24日	第1回 全県協議会 (RT) が本庁で開催
	7月～8月	各路線でワーキングチーム (WT) が開催
	2月1日	協議会の開催 (取りまとめ)、WTの継続設置
令和5年7月18日	協議会の開催、(各WT開催)	
令和6年7月19日	〃	
令和7年7月28日	〃 ※11月「赤穂線」が収支公表	
令和8年4月16日	協議会の開催 (赤穂線参画)	

※路線毎のWTは年度内2回開催



▲赤色：対象の県内ローカル線(5路線7区間)

○体制



輸送密度		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
赤穂線	播州赤穂～長船	2,178	1,677	1,634	1,726	1,746	1,687
山陰本線	城崎温泉～浜坂	693	506	606	721	574	574
	浜坂～鳥取	921	798	738	768	792	763
播但線	寺前～和田山	1,222	714	924	972	1,047	1,083
加古川線	西脇市～谷川	321	215	207	237	275	293
姫新線	播磨新宮～上月	932	750	774	822	813	780
	上月～津山	413	346	358	386	401	387

令和 7 年度の主な取組結果等

山陰線WT

R7の方向性

- キャッシュレス決済導入に向けた検討
- 但馬地域全体の持続可能な交通体系の構築とシームレスな移動の実現に向けた検討
- 交通施策のキーマンとなる人材育成



【予約型乗合交通「たけの〜る」】 【関宮小さな拠点 イメージパース図】

R7の総括

- ひょうご新IC整備協議会による交通系IC導入着手
- デマンド交通や自動運転バスによる二次交通の充実
- 勉強会の開催による交通政策に係る広域連携機運の醸成



【鉄道利用促進助成事業】



【鉄道往復利用支援事業】

1 「乗って守ろう！竹野駅ペイ」の実施

日常利用の促進

【概要】

事業内容 令和5年度実施した「JR山陰本線利用促進策ワークショップ」からの創出策として、今年度も継続実施
JR竹野駅の売上増加と地域振興を目的に、竹野駅で切符を購入された方に、購入金額に応じ**竹野地域内の観光施設、
宿泊施設、飲食店等で使用できるクーポン券（100円/1枚）を配布。**

特徴 昨年度のクーポン券の換金率約94.4% 投資が地元商店等に還流される良い施策と判断し、
令和7年度も継続して実施

実施主体 竹野地域公共交通利用促進委員会（R7予算：4,000千円）

実施期間 4月～8月末日

実施結果 【配布実績】8月31日 20,000枚配布完了【換金実績】19,088枚 換金率約95.4%

【実施状況・課題】 2025年度の乗車券類販売実績は、2年連続コロナ禍前の2019年度実績を上回った。



【チラシ】

2 トライやる・ウィーク交通費支援

日常利用の促進

【概要】

事業内容 令和5年度実施した「JR山陰本線利用促進策ワークショップ」からの創出策を実施
小中学生が公共交通に乗る「きっかけ」づくりや「地域の公共交通に対する問題意識の喚起」を
目的に、市内の中学2年生が実施する**トライやる・ウィーク**において、**体験活動先の事業所へ移
動する際に公共交通を利用**してもらい、利用した**公共交通の費用支援**を実施

特徴 交通事業者と連携し、特別乗車証等を生徒に配布

実施主体 豊岡市（R7予算：340千円）

実施期間 5月～6月

実施結果 延べ101名の生徒が利用（JR22名、路線バス69名、市営バス10名）

【実施状況・課題】 市立豊岡南中学校の生徒7名、港中学校の生徒1名、日高東中学校14名がJRを利用し、市内事業所訪問につな
り新たな体験機会を創出できた。

【今後の展開】 公共交通利用の意識付けとしての意義も大きいため、来年度も継続して実施予定

3 養父市関宮小さな拠点づくり共創プラットフォーム事業

日常利用の促進

- 【概要】**
- 事業内容** 養父市関宮地域における持続可能な公共交通体系の構築に向け、整備が進められている「**関宮小さな拠点**」を地域の移動手段の結節点（**ターミナル拠点**）として運用することを想定し、令和5年度よりデマンド交通の実証実験を実施（国土交通省「交通空白解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト（共創モデル実証運行事業）」を活用）
- 特徴** 関宮地域内を運行エリアとし、**路線バスの利用ニーズが少ない日中の時間帯にデマンド交通を活用**
地域の小中一貫校の登下校において、**スクールバスに代わりデマンド交通の車両を活用**
- 実施体制** 養父市、NPO法人但馬を結んで育つ会、全但バス株式会社、NPO法人養父市マイカー運送ネットワーク、社会福祉法人養父市社会福祉協議会、一般財団法人日本自動車研究所、セイノーホールディングス株式会社
- 実施期間** 11月8日（土）～1月18日（日）
- 実施結果** 利用人数：延べ185人
- 【実施状況・課題】** 今年度より予約配車アプリを導入し、有償にて実施
（1乗車 運賃400円～1,000円 高齢者等半額割引あり）
- 【今後の展開】** 令和8年度も引き続き実証事業を行い、令和9年4月からの本格実装を目指す



【デマンド交通車両】

4 自動運転バス実証事業

日常利用の促進

- 【概要】**
- 事業内容** 養父市では、高齢者等の移動手段の確保やバス等の運転手不足などへの対応策の1つとして、自動運転バスの導入について検討を進めており、令和6年度から実証実験を実施（国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転社会実装事業）」を活用）
- 特徴** JR八鹿駅を出発点とするルートとし、**新モビリティを活用して日常利用の利便性向上と2次交通の利用促進による観光客の増加を目指す**
- 実施体制** 養父市、BOLDLY（株）、全但バス（株）、やぶ市観光協会
- 実施期間** 11月19日（水）～2月20日（金）
- 実施結果** 利用人数：延べ324人
- 【実施状況・課題】** 今年度は車両を1台増やし、運行ルートを道の駅ようか但馬蔵まで延長
運行ダイヤを昨年度の4往復8便から6往復12便に増便
画像認識機能の追加等の車両アップデートを実施
- 【今後の展開】** 自動運転の技術面、社会受容性、経営面を評価検証しながら、将来的なレベル4運行を見据えた地域交通の構築を目指す



【自動運転バス車両】

5 鉄道利用促進助成事業

日常利用の促進

【概要】

事業内容 香美町在住者を対象に町内5つの駅（佐津、柴山、香住、鎧、餘部）を発着として**2名以上で往復**する場合の**利用料金**（運賃及び特急料金など）の**半額を助成**する。
※JR営業距離に応じた助成上限あり

実施主体 香美町（R7予算：約2,000千円）

実施期間 令和7年度

実施結果 申請：223件、利用者：540名、助成金合計：約1,572千円（3月26日時点）

【実施状況・課題】 昨年度同期に比較し申請件数は139.4%（R6-160件）利用者数は150.4%（R6-359人）、助成金は144.8%（R6-1,086千円）と増加している。

【今後の展開】 引き続き町民への周知を行い、利用者の増加を図る。



6 鉄道往復利用支援事業

日常利用の促進

【概要】

事業内容 町民が浜坂駅を発着駅として、豊岡（城崎温泉）駅又は鳥取駅を往復利用する場合に、**片道分の乗車券及び鉄道ノベルティを配布**

特徴 JR山陰線の鉄道運行の持続的な確保と利便性の向上を図るため、町民の鉄道利用増加、路線維持に対する意識高揚を目的とする。

実施主体 新温泉町（R7予算：130千円）

実施期間 3月18日、3月19日、3月28日、3月29日（計4日実施）

実施結果 利用者：延べ 38名（うち子ども3名）

【実施状況・課題】 春休み期間（出かけやすい時期）に実施した。町民に対し、鉄道の魅力をアピールすることができた。



【昨年度事業実施の様子】



【鉄道ノベルティ】

7 鉄道往復団体利用支援事業

日常利用の促進

【概要】

事業内容 10人以上20人以内で町民の方のみの団体が、浜坂駅を発着駅として豊岡（城崎温泉）駅または鳥取駅までの間を**鉄道で往復利用**した場合に**片道分の乗車券を配布**する。

特徴 団体でのレクリエーション等に利用できる。

実施主体 新温泉町（R7予算：130千円※鉄道往復利用支援事業と同予算）

実施期間 3月1日～31日のうち利用希望日

実施結果 利用者：1団体（延べ 11名）



【昨年度事業実施の様子】

【実施状況・課題】 春休み期間（出かけやすい時期）に実施した。町民に対し、鉄道の魅力をアピールすることができた。

8 特急はまかぜ利用助成金交付事業

日常利用の促進

【概要】

事業内容 町民が特急**はまかぜ**を利用した際の**乗車券等の運賃を助成**

特徴 特急はまかぜの利用促進を図る。

実施主体 新温泉町（R7予算：1,050千円）

実施期間 令和7年度

実施結果 利用者：延べ 370名（3月末時点）
（令和6年度利用者：延べ 344名）

【実施状況・課題】 町民が移動手段で鉄道（特急はまかぜ）を選択するきっかけとなった。

【今後の展開】 新規利用者を確保できるよう、広報・周知に努める。



【広報チラシ】

9 特急はまかぜ「ちょい乗り」事業

日常利用の促進

【概要】

事業内容 10人以内（1人でも可）の町民の方が、**浜坂駅から鳥取駅まで特急はまかぜを利用**する場合に**片道分の特急券を配布**する。

特徴 乗車券料金のみで特急はまかぜに乗車できる

実施主体 新温泉町（R7予算：129千円）

実施期間 3月18日、3月19日、3月28日、3月29日（計4日実施）

実施結果 利用者：延べ 10名（うち子ども4名）



【昨年度事業実施の様子】

【実施状況・課題】 春休み期間（出かけやすい時期）に実施した。町民に対し、鉄道の魅力をアピールすることができた。

10 町民ふれあいの旅事業

観光需要の増加

【概要】

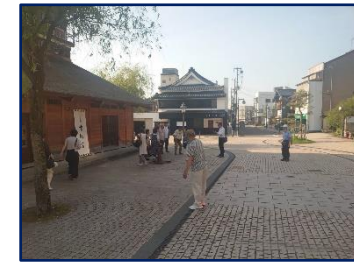
事業内容 特急**はまかぜを利用した町民ふれあいの旅**を実施（美しい風景と歴史を巡る山代温泉2日間の旅）

特徴 町民の親睦と鉄道の利用促進を図る。

実施主体 マックトラベルサービス（共同企画：新温泉町）（R7予算：430千円）

実施期間 6月20日～21日

実施結果 参加者：20名



【本年度事業実施の様子】

【実施状況・課題】 石川県を訪れ、町民の親睦及び鉄道の利用促進を図ることができた。

11 JRローカル線駅周辺活性化モデル事業

観光需要の増加

日常利用の促進

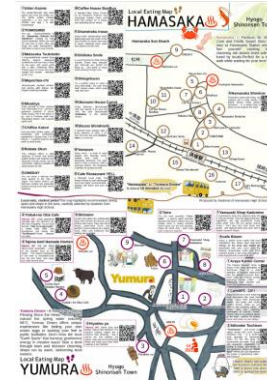
まちづくりと
一体となった魅力創出

【概要】

- 事業内容** 駅周辺活性化の取組を行う事業者、地域団体等に対する事業費の補助
- 特徴** JRローカル線の駅舎や駅周辺の遊休不動産等を活用し、駅周辺に人の流れや賑わいを生み出す事業者、自治会等の地域団体、学校等の取組を支援することにより、駅周辺の活力や魅力を向上させ、利用拡大を図る。
- 実施主体** 兵庫県（市町協調）（R7予算：200千円×2）
- 実施期間** 令和7年度
- 実施結果** 浜坂高等学校「浜坂高校生がつくる『食べ歩きMAP』プロジェクト」を採択

【実施状況・課題】 浜坂駅・湯村温泉エリアを対象に、自動車やバスの待ち時間を活用した“食べ歩き”や“立ち寄り”を促進する食べ歩きMAP（英語版）を作成。

【今後の展開】 モデル事業開始より3年が経過し、活動団体が一定、地域に根差したと考えられる。次年度は全県的なPR活動に努める。



【食べ歩きMAP】

12 乗って守ろう！山陰本線「浜坂・香住・竹野駅ペイ」の実施

観光需要の増加

日常利用の促進

【概要】

- 事業内容** 新温泉町浜坂地域、香美町香住地域及び豊岡市竹野地域内の観光施設、宿泊施設、飲食店等で使用できるクーポン券（100円/1枚）を配布
- 特徴** 豊岡市竹野駅にて実施されていた「乗って守ろう！竹野駅ペイ」の手法を新温泉町・香美町に拡大
- 実施主体** 但馬地域鉄道利便性向上対策協議会（R7予算：1,767千円）
- 実施期間** 9月1日～2月28日
- 実施結果** 【配布実績】10,428枚配布 【換金実績】9,462枚 換金率約90.7%

【実施状況・課題】 駅によってクーポン配布方法が異なり、配布実績に偏りはあったものの、沿線市民の意識醸成といった効果があったと考えられる。

【今後の展開】 市町単独事業としての実施を検討中。



【ロゴマーク】

13 兵庫県・鳥取県の鉄道利用促進連携事業【新】

観光需要の増加

日常利用の促進

【概要】

事業内容 鳥取県東部地域鉄道利用促進実行委員会と連携して、JR山陰本線・特急はまかぜの利用を促進するキャンペーン「山陰本線で行く！ごほうび鉄道旅！」を実施

特徴 乗車特典の提供により、豊岡～青谷駅間の県境を跨いだ列車の利用を促す

実施主体 鳥取県東部地域鉄道利用促進実行委員会・但馬地域鉄道利便性向上対策協議会

実施期間 12月13日～2月23日

実施結果 応募件数：189件（普通列車利用 104件、特急はまかぜ利用 85件）

【実施状況・課題】

【今後の展開】 鳥取県とは令和5年度より連携して企画を実施しており、引き続き鳥取県との連携を図る。



【チラシ】

14 但馬地域における公共交通の利便増進に向けた人材育成事業【新】

観光需要の増加

日常利用の促進

【概要】

事業内容 各ステークホルダーや既存ネットワークで顕在化している課題の共有と解決に向けた方策、「持続可能な公共交通体系」の方向性を整理し、広域連携を主導できる人材を育成する。

実施主体 但馬地域鉄道利便性向上対策協議会（R7 予算：14,769千円）

実施期間 令和7年度

実施結果 国交省「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト「モビリティ人材育成事業」の交付決定を受け、全4回にわたる但馬地域公共交通勉強会を実施した（10月24日、11月19日、12月11日、1月28日）。

【実施状況・課題】 但馬地域の交通課題を整理するため、各市町・交通事業者等が各種統計データの分析に取り組んだ。

【今後の展開】 勉強会の成果を報告書としてとりまとめ、今後の地域公共交通のあり方を検討する際にマニュアルとしても活用できるようにする。また、公共交通フォーラムを開催し、地域へもその内容を広める。

15 WESTERへの情報集約

観光需要の増加

【概要】

事業内容 各自治体からご提供いただいた沿線の観光スポットやイベント情報を、JR西日本アプリ「WESTER」に集約して積極的に情報を発信する。

実施主体 JR西日本、沿線自治体

実施期間 通年

実施結果 豊岡市：スポット39件（39件）、イベント24件（30件）
 養父市：スポット12件（12件）、イベント16件（16件）
 朝来市：スポット15件（15件）、イベント15件（13件）
 香美町：スポット14件（14件）、イベント7件（9件）
 新温泉町：スポット11件（11件）、イベント16件（15件）
 ※（ ）内は5月時点

【実施状況・課題】 イベント情報を継続して、ご提供いただいている。



16 かにカニはまかぜ・はなあかりの運行

観光需要の増加

【概要】

事業内容 臨時特急「かにカニはまかぜ」に「地域の華を列車に集め、お客様と地域の縁を結ぶ列車」をコンセプトにした観光列車「はなあかり」を増結することで、北近畿への旅をゆったりと贅沢にお楽しみいただく。

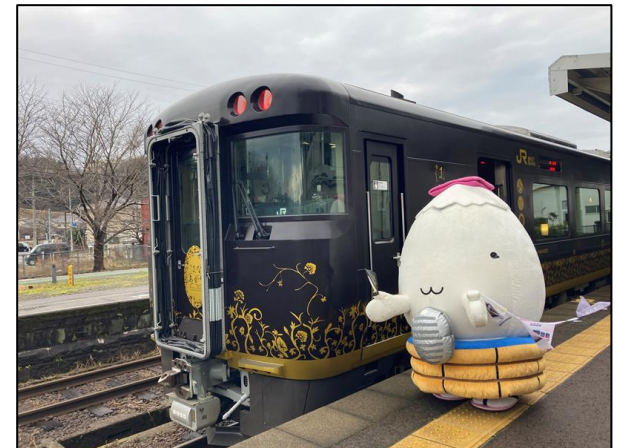
特徴 車内で兵庫県内の工芸品・アート作品を展示

実施主体 JR西日本

実施期間 1月5日～3月8日の月・金・土・日曜日

【実施状況・課題】 新聞やテレビに取り上げられ話題作りができています。

【今後の展開】 観光列車等を通じて、地域の魅力を発信していく。



【昨年度の様子】

17 利用促進リーフレットの作成 [新]

観光需要の増加

【概要】

事業内容 普段鉄道をご利用されていない住民の皆さまに向けて、沿線のお出かけスポット、施設と共に山陰線(城崎温泉～浜坂)の置かれている現状を知っていただくことで利用促進に繋げるリーフレットを作成

実施主体 JR西日本、沿線自治体

実施期間 6月～3月

【今後の展開】

- ・今年度末を目途に公共施設等に配架する。



18 ご利用実態調査 [新]

観光需要の増加

【概要】

事業内容 乗車駅・降車駅、目的、利用頻度、二次交通等についてのアンケート調査を実施。併せて、ノベルティを配布し、鉄道利用の呼びかけを実施

実施主体 JR西日本

実施期間 9月18日(木)、19日(金)、20日(土)、21日(日)

実施結果 アンケート獲得数=996人、獲得率=32.6%
 ・平均乗車人数/日(平日843.5人、休日690.5人)
 ・最大乗車人数/1列車(平日124人、休日73人)

【実施状況・課題】

- ・鉄道をご利用されていない地域の方々への利用促進の呼びかけが必要である。

【今後の展開】

- ・昨年度、今年度のご利用実態調査の結果をまとめ、山陰線(城崎温泉～浜坂)の現状分析に活かす。



令和8年度の取組

山陰線WT

R8の方向性

- 路線バスのキャッシュレス決済システム導入
- 観光資源を活用した沿線地域周遊の促進
- 交通資源確保のための施策検討



【余部鉄橋保存・活用検討会】



【交通系ICカード対応 バス車載器】



【但馬周遊観光バス「たじまわる」】



【自動運転バス実証事業】

令和8年度の取組検討項目（一覧）

山陰本線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
JR山陰本線利用促進事業	<p>①「乗って守ろう！竹野駅ペイ」実施事業 JR竹野駅で切符等を購入した利用者に対して、購入金額に応じた額面のクーポン券(100円/1枚)を配布（発行予定枚数：25,000枚、上限2,000円のクーポン券）し、竹野地域内の観光施設、宿泊施設、飲食店等で利用できる取組み</p> <p>②山陰本線周遊サイクルトレインスタンプラリー事業 JR山陰本線（城崎温泉駅～竹野駅間）において、サイクルトレインとスタンプラリーを組み合わせた周遊観光を促進</p> <p>③桜のライトアップイベント事業（4月）</p> <p>④イルミネーションライトアップイベント事業（12月～1月）</p>	4,623千円	竹野地域公共交通利用促進委員会	●	●	
トライやる・ウィーク交通費支援	トライやる・ウィークにおいて、体験活動先の事業所へ移動する際の公共交通機関を利用した際の費用を支援	377千円	豊岡市	●		
竹野駅乗車券類等簡易委託販売業務	竹野駅での乗車券類の販売、日常清掃業務、利用者の利便性向上に資する業務	2,280千円	豊岡市 (一社)たけの観光協会	●		
市職員公共交通利用	市職員の市内移動、域内出張に公共交通機関を利用	300千円	豊岡市	●		
e通勤プロジェクト	公共交通機関を利用した通勤の推奨	—	豊岡市	●		
募集型企画旅行の実施	地元住民を対象に特急列車を利用した募集型企画旅行を月1回程度実施	—	竹野駅を愛する会		●	

令和8年度の取組検討項目（一覧）

山陰本線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
養父市関宮小さな拠点づくり共創プラットフォーム事業	市が進める「関宮小さな拠点」を、地域の移動手段と路線バスとの結節点として運用することを想定し、旧関宮地域の交通体系を検討する中で、デマンド交通実証実験を実施	27,304千円 (予算総額) 4,722千円 (養父市負担分)	養父市 交通事業者等	●		
自動運転バス実証実験	自動運転バスの導入により新たな交通体系の在り方を検討	—	養父市 BOLDLY(株) 全但バス(株) やぶ市観光協会	●		
鉄道利用促進助成事業	香美町在住者が町内5駅を発着として2名以上で往復する場合の利用料金の半額を助成	2,000千円	香美町	●		
【新】浜坂駅ペイ事業	町内の観光施設、宿泊施設、飲食店等で使用できるクーポン券(100円/1枚)を配布	695千円	新温泉町	●	●	
職員公共交通利用出張	職員の効率的出張を図るため、公用車の乗り合わせ出張をする一方、神戸等への職員一人の出張については特急はまかぜを利用して出張することにより、鉄道の利用促進を図る。	875千円	新温泉町	●		
特急はまかぜ利用助成金事業	町民が特急はまかぜを利用(町内にある4つの駅から大阪駅までの運行区間内)した場合に利用に係る乗車券や特急券の購入費用を助成	1,050千円	新温泉町	●		

令和8年度の取組検討項目（一覧）

山陰本線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
デマンド型乗合交通の活用 (播但線再掲)	市内全域で導入されたデマンド型乗合交通を活用し、2次交通の充実を図る。	128,504千円	朝来市	●	●	●
情報発信 (播但線再掲)	ケーブルテレビや市広報誌、SNSなどの情報媒体を使った情報発信の実施	—	朝来市	●		●
利用促進 (播但線再掲)	市民・行政・交通事業者の3者が一体となった利用促進の実施(市職員による利用促進の取組など)	—	朝来市	●	●	●
JR和田山駅周辺整備事業 (播但線再掲)	JR和田山駅周辺において、南北自由通路並びに駅北側ロータリーの基本設計を実施し、和田山駅利用者の利便性向上に向けて調整を進める。	—	朝来市	●		●

令和8年度の取組検討項目（一覧）

山陰本線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
豊岡車両基地見学会	地域住民(子ども)を対象に豊岡駅構内の車両基地見学会を実施	750千円	但馬地域鉄道利便性向上対策協議会	●		
【新】但馬地域公共交通フォーラム	令和7年度但馬地域公共交通勉強会の成果を地域全体に周知するため、公共交通の重要性を再認識する場として、有識者を招いた講演・パネルディスカッションの実施を検討中。		但馬地域鉄道利便性向上対策協議会	●	●	
【新】山陰本線・播但線フォトコンテスト	JR山陰本線沿線地域の魅力が伝わる写真を募集し、フォトコンテストを開催する。		但馬地域鉄道利便性向上対策協議会	●	●	
レンタサイクル利用補助事業	兵庫県但馬・鳥取県東部地域の交通・観光連携協議会等と連携して京阪神からの鉄道利用者の2次アクセスを充実 【期間】8月～11月		兵庫県但馬・鳥取県東部地域の交通・観光連携協議会 但馬地域鉄道利便性向上対策協議会等		●	
但馬周遊観光バス「たじまわる」の運行	○JR各駅等と観光地を結ぶガイド付き観光バス「たじまわる」の運行を軸に、主要観光地の二次交通を確保 ○ガイド無料や観光施設入館無料など、立ち寄り先での特別体験を企画	12,904千円	但馬観光協議会		●	

令和8年度の取組検討項目（一覧）

山陰本線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常 利用	観光 需要	まち づくり
【新】JRローカル線利用促進イベントにかかる効果検証アンケートの実施	令和7年度JRローカル線維持・利用促進協議会において、「利用促進事業の効果検証が必要」との意見が出たことをふまえ、利用促進イベント開催時における参加者へのアンケートを実施	—	各イベント主催団体	●	●	
【新】播但貫く、周遊型・謎解きスタンプラリー	中播磨・但馬地域でフィールドパビリオンや観光地を巡る謎解きスタンプラリーを実施。鉄道利用をスタンプ獲得条件にする等の利用促進の仕掛けを検討している。	5,434千円	兵庫県 (但馬県民局・ 中播磨県民センター)		●	
【新】余部鉄橋保存・活用検討会の設置	有識者、地元関係者、鉄道事業者、行政で構成する検討会において、余部鉄橋の修繕方法や工事中の観光利用など、保存・活用方策を検討し、更なる利活用促進を図る。	—	兵庫県 (但馬県民局)		●	●
観光情報誌「西Navi」を通じた地域のイベント情報の発信	JR西日本全エリアの駅に配架されている西Naviを通じて、地域のイベント情報を発信	—	JR西日本		●	
かにカニはまかぜの運行(予定)	冬季に臨時特急「かにカニはまかぜ」を運行	—	JR西日本		●	
沿線行事のPR	沿線行事のポスター・パンフレット等を駅に掲出	—	JR西日本		●	

令和 7 年度の主な取組結果等

加古川線WT

R7の方向性

○ 大阪・関西万博に向けた関係機関と連携した利用促進事業の推進

大阪・関西万博を誘客のチャンスと捉え、地元自治体と沿線関係団体、JR西日本等が一丸となった効果的な事業を実施により、JR加古川線の更なる利用促進につなげる。

○ 鉄道利用の気運醸成と利用促進への支援

学生の通学、沿線企業従業員の通勤などの日常利用促進や、地域住民が主体となった駅周辺の賑わいづくりに対する支援を通じて、鉄道利用の気運醸成と継続した利用促進につなげる。

○ イベント等の連携・情報発信等協力体制の強化

各団体が実施するイベント等での相互連携、他の団体の取組とのコラボ、チラシの配布、記者発表等の協力体制を強化する。

R7の総括

○ 大阪・関西万博に向けた関係機関と連携した利用促進事業の推進

- ・万博期間中、臨時増便やフィールドパビリオンを巡る貸切列車、地元地域と連携したリレーマルシェの連続開催（7/26、8/9、8/22）など集中的に利用促進に取り組んだ。万博終了後も継続してリレーマルシェ（11/22、12/26）を開催するなど、路線維持に向けた気運醸成を高めている。
- ・利用促進により輸送密度が前年度と比べ大きく増加している。〔4～10月輸送密度：350人（R6年間輸送密度：293人、約20%増）〕

○ 鉄道利用の気運醸成と利用促進への支援

- ・日常利用の更なる利用者増に向け、新たに「通勤定期券購入補助事業」（20名）や「駅等周辺駐車場利用料金助成事業」（9名）を実施するとともに、「通学定期券購入補助事業」（86名）、「社会学習利用助成」（173名）、「団体利用助成」（1115名）など多くの方々が利用し、鉄道利用のさらなる促進を図ることができた。
- ・引き続き鉄道利用の気運醸成を図り、地域住民が主体となった賑わいづくりを進めていく。

○ イベント等の連携・情報発信等協力体制の強化

- ・JR加古川線リレーマルシェ等駅周辺のイベントに、沿線高校生が参画するなど、地元自治体や地域協議会、JRによる一体となった取り組みで利用促進につなげることができた。（イベント日数：6日間、参加者数：約5,100人、加古川線利用者数：約1,080人）
- ・引き続き、連携、協力体制のもと事業を実施していく。

1 フィールドパビリオン等を巡る貸切列車の運行【新】

観光需要の増加

【概要】

事業内容 フィールドパビリオン等を巡る駅発着の貸切列車を運行し、北播磨地域と丹波地域への誘客を促進した。

- ①丹波地域
 - ・丹波竜の里公園・元気村かみくげ（化石発掘体験）
 - ・丹波市漢方の里運動公園（旧薬草薬樹公園）（パンづくり教室）
 - ・たんば恐竜博物館（見学）
- ②北播磨地域
 - ・西脇市郷土資料館（ガイドによる解説・見学）
 - ・播州織工房館（見学・買い物）
 - ・旧来住家住宅（ガイドによる解説・見学）
 - ・日本へそ公園（テラドームにてプラネタリウム鑑賞等）

実施主体 JR加古川線（西脇市駅～谷川駅間）利用促進協議会（R7予算額：2,700千円）

実施期間 ①8月2日（土）（丹波地域）

②9月13日（土）（北播磨地域）

実施結果 ①28名 ②27名（定員30名）

【成果】

- ・募集開始後、即完売となり、沿線の地域資源のポテンシャルの高さを感じることができた。
- ・参加者がリピーターとなって家族や友人と来てもらえるよう、当日は加古川線車内でのトークイベント、化石発掘体験、日本酒の試飲を行い、加古川線と沿線地域をPRした結果、「新しい発見があり、もう一度来たい」等の声が聞かれた。

【今後の展開】

引き続き、沿線の魅力を発信し、加古川線の利用促進につなげていく。



電車内トークイベント



丹波地域（たんば恐竜博物館）



北播磨地域（日本へそ公園）

2 地元高校生デザインの播州織中づくり広告による鉄道利用促進

日常利用の促進

観光需要の増加

【概要】

事業内容 県立西脇高校生がデザインした「播州織中づくり広告」の車内掲示による鉄道利用の呼びかけ

実施主体 JR加古川線（西脇市駅～谷川駅間）利用促進協議会（協力：西脇高校、繊維工業技術支援センター）（R7予算300千円）

実施期間 10月9日～10月29日（広告掲示期間）

実施結果

沿線の県立西脇高校生、県立繊維工業技術支援センターの協力により、「駅名」や沿線市の「市花」、市のマスコットキャラクター「にっしー」(西脇市)、「ちーたん」(丹波市)をデザインした播州織中づくり広告を作成し、JR加古川線全車両内に掲示した。



【成果】 地元高校生が「さあ、加古川線を愛そう」をテーマに思いを込めてデザインしたという話題性が、功を奏し新聞でも紹介され、加古川線の現状を広く知ってもらうことができた。

【今後の展開】 地元高校生など地域と連携を図りながら、地元気運醸成に取り組んでいく。

3 路線を丸ごとテーマパーク化！新たな観光需要の創造による加古川線利用促進事業【新】

観光需要の増加

【概要】

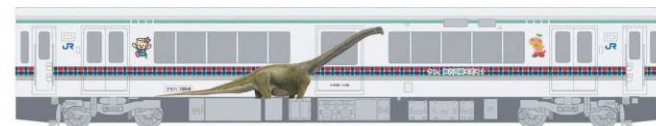
- 事業内容**
- ①「加古川線ラッピング列車」(丹波竜・西脇チェック)の運行
 - ②沿線施設の「恐竜AR」との写真投稿(地元特産品等プレゼント)
 - ③WEBを活用した「恐竜&加古川線検定」の実施

実施主体 JR加古川線（西脇市駅～谷川駅間）利用促進協議会（R7予算額：6,600千円）

実施期間 ①R7.11.23～R8.9月末、②③ R7.12.21～R8.3月末

【成果】

- ・「ラッピング列車」はデザインが好評で、新聞報道やSNSで複数発信されるなど話題となり、加古川線の現状等について広く発信することができた。
- ・「恐竜AR」では、沿線施設訪問により周遊を促進することができた。
(二次元コード読み取り回数3,858回)
- ・「恐竜&加古川線検定」は加古川線の理解を深める機会となった。(回答数 405件)



ラッピング列車

【今後の展開】 事業により、加古川線の利用促進や認知度向上につなげていく。

4 JR加古川線維持・利用促進地域協議会等と連携したリレーマルシェ等駅周辺イベントの開催

日常利用の促進

観光需要の増加

【概要】

事業内容 駅周辺の賑わい創出、加古川線の利用促進を目指し、JR加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会や地元自治会等と連携したマルシェなどを開催（R7予算額：9,630千円）

実施結果

事業名	開催日	場所	実施主体等	参加者数	うち 鉄道利用者
北播磨かんきょうフェスタ	6/8 (日)	日本へそ公園、 日本へそ公園駅前	・北播磨県民局 ・西脇市 (協力) 西脇北高校	約900名	約180名
リレーマルシェ× 山田錦日和	7/26 (土)	日本へそ公園駅前	・北播磨県民局 ・JR加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会 ・山田錦日和実行委員会	約500名	約90名
リレーマルシェ 「へそマルシェ」	8/9 (土)	日本へそ公園駅前	・JR加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道利用促進協議会 ・JR加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会	約800名	約140名
リレーマルシェ 「久下村夜市」	8/22 (金)	久下村駅周辺	・丹波県民局 ・久下自治振興会	約1,100名	約270名
リレーマルシェ ×空飛ぶランタン	11/22 (土)	日本へそ公園駅前	・JR加古川線（西脇市駅～谷川駅間）利用促進協議会 ・JR加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道利用促進協議会 ・JR加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会	約900名	約170名
リレーマルシェ 「谷川昼市」・ 「久下村ランタン 祭り」	12/6 (土)	谷川駅周辺、 久下村駅周辺	・丹波県民局 ・JR加古川線（西脇市駅～谷川駅間）利用促進協議会 ・久下自治振興会	約900名	約230名



北播磨かんきょうフェスタ



久下村夜市



リレーマルシェ×空飛ぶランタン

【成果】

- ・万博期間中、地元地域と連携したリレーマルシェの連続開催（7/26、8/9、8/22）など集中的に利用促進に取り組んだ。
- ・また、万博終了後も引き続き継続してリレーマルシェ（11/22、12/26）を開催するなど、地元住民の気運醸成と鉄道利用者増加につなげることができた。

【今後の展開】 引き続き実施することで、地元住民の更なる気運醸成につなげていく。

令和7年度の主な取組結果

5 定期券購入・定期券購入者自転車貸出・駐車場利用料金の支援事業（拡）

日常利用の促進

【概要】

事業内容

- ①通学定期券購入補助（実施主体：西脇市、丹波市 R7予算額：2,982千円）
通学定期券を購入する学生〔市内に在住又は在学〕に対し購入費を助成（丹波市は在住のみ）
- ②【新】通勤定期券購入補助（実施主体：西脇市、丹波市 R7予算額：1,425千円）
通勤定期券を購入する者〔市内に在住又は在勤〕に対し購入費を助成
- ③通勤・通学自転車無償貸出事業（実施主体：西脇市 R7予算額：296千円）
駅からの二次交通確保のための通勤・通学定期券購入者〔①②の者〕へ自転車無償貸出
- ④【新】駅等周辺駐車場利用料金助成（実施主体：西脇市 R7予算額：1,200千円）
鉄道等の定期券購入者〔市内在住〕を対象に駅等周辺駐車場の利用料の助成

実施期間 4月～

実施結果 利用者：①86名②20名③15名④9名



無償貸出自転車

- 【成果・課題】
- ①昨年度に比べ利用者が増加した。自転車通学から電車通学へ変更した利用者もあり、好評を得ている。
 - ②自動車通勤から電車通勤に変更した利用者が多く、鉄道利用への転換に有効な取組となった。
 - ③利用者からは非常に助かると好評を得ている。より多くの方に有効に利用いただけるよう更なる周知が必要
 - ④駐車料金の補助をすることにより自動車利用から公共交通利用へと交通手段の転換を進めることができた。

【今後の展開】 制度を継続し、さらに周知を図ることにより、鉄道利用者の増加を図る。

6 加古川線団体利用助成事業

日常利用の促進

観光需要の増加

【概要】

事業内容

- ①社会学習利用助成・・・学校園等が加古川線を利用して行う社会学習活動に対し運賃を助成
- ②団体利用助成・・・3名以上の団体利用に対し運賃を助成（5名以上→3名以上に拡充）

実施主体 西脇市、丹波市（R7予算額：①550千円、②700千円）

実施期間 4月～

実施結果 利用者：①小学校5校（116名）、中学校1校（16名）こども園1園（41名）
②135団体（1115名）



西脇小学校による遠足利用

【成果・課題】 沿線の学校園や一般団体で補助制度を利用した鉄道利用を進めることができた。今後、この地域で活動の幅を広げていく若い世代や、一般の方のJR加古川線への愛着を育むため、より多くの方に制度を利用してもらうことが必要。

【今後の展開】 引き続き、多くの方に鉄道を利用してもらうため周知を進める。

7 JR加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会の取り組み

日常利用の促進

観光需要の増加

【概要】

事業内容

- ①緊急応援企画～ライド&ゲット！電車に乗って、プレゼントをもらおう～の実施
電車に乗るとガチャガチャ抽選会に参加できる乗車促進キャンペーン
(実施期間：10/1～10/13(利用者数63名))
- ②乗車を呼びかけるチラシの配布等啓発の実施
西脇市茜が丘複合施設Miraie(みらいえ)、たんば恐竜博物館(実施日：9月13日(金))
- ③リレーマルシェなど利用促進イベントへの参画(7/26、8/9、8/22、11/22、12/6)
- ④啓発資材の作成〔懸垂幕(3枚)・啓発チラシ(約37,000枚)・沿線サイクリングマップ〕等

実施主体

JR加古川線（西脇市駅－谷川駅）維持・利用促進地域協議会

(R7予算額 1,000千円〔西脇市：丹波市＝1：1〕)

構成：黒田庄まちづくり協議会、比延地区自治協議会、久下自治振興会

【成果】

設立から2年目をむかえ、地域協議会のメンバーが、啓発チラシを直接住民に渡して利用促進を呼びかけるなど、積極的な啓発活動が、地元住民の気運醸成につながっている。また、利用者に向けて市が行う「団体利用助成」でも住民に対して申請支援を行うなど、行政と連携した取組は利用促進につながっている。

【今後の展開】

引き続き、行政と連携しながら住民の鉄道利用の呼びかけ等の利用促進の取組を進めていく。



啓発チラシ配布(みらいえ)

8 加古川線の増発及び特急列車を谷川駅に臨時停車する実証実験【新】

日常利用の促進

観光需要の増加

【概要】

事業内容 昼間時間帯の列車を増発することで、加古川線（西脇市～谷川駅）の利用が増加するかどうか検証。併せて、特急こうのつりの谷川駅への臨時停車を実施

実施主体 JR西日本

実施期間 4月13日（日）～10月13日（月・祝）

- 実施結果**
- ①加古川線（西脇市～谷川駅間）増発実証実験
1日2往復4本実施 平均乗車人数 10.5人/本
 - ②谷川駅特急こうのつり臨時停車実証実験
こうのつり12号、14号、16号、17号の4本実施 平均乗換者数 0.6人/本

【成果】

- ①増発列車の平均乗車人数10.5人/本は乗車率では6.3%であり、昼間時間帯での増発列車の利用者は少なかった。※定員 125系（1両）：114人、103系（2両）：278人
- ②谷川駅に臨時停車した特急こうのつりと加古川線を乗り換える利用者は少なかった。



9 「ぶらり加古川線tabiwa 1Dayパス」の発売【新】

観光需要の増加

【概要】

事業内容 加古川線を1日乗り放題できるデジタルパスを発売

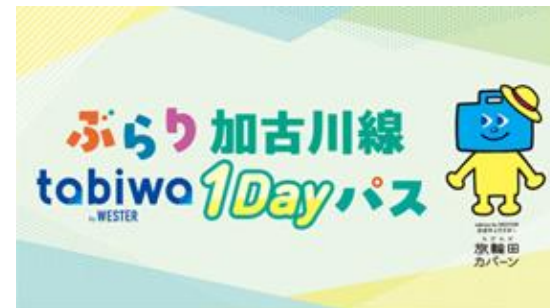
実施主体 JR西日本

実施期間 4月13日（日）～10月13日（月・祝）の計184日

実施結果 発売実績 861枚

【成果】

全体の4分の3が兵庫県内からの利用だった。
その他、大阪府や東京都、富山県など各地から利用いただいた。



令和 8 年度の取組

加古川線WT

R8の方向性

○鉄道利用のさらなる気運醸成と利用促進への支援

大阪・関西万博期間中、沿線自治体や地元住民、JR西日本等が連携した利用促進の取組により、利用者が大きく増加し、さらなる利用に向けた気運が高まっている。

今後も引き続き、通学・通勤などの日常利用促進や、駅周辺賑わいづくりへの支援など、関係自治体、地元住民、JR西日本等が協力し、利用促進に尽力する。

○イベント等の連携・情報発信等協力体制の強化

各団体が実施するイベント等での相互連携、他の団体の取組とのコラボ、チラシの配布、記者発表等の協力体制を強化する。



項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
【拡】 JR加古川線利用促進事業	(乗車促進) ○沿線周遊促進事業 電車内や駅舎を利用したデジタルスタンプラリーや駅からのウォーキングイベント等を実施する。	8,000千円 (各2,000千円)	JR加古川線（西脇市駅～谷川駅間）利用促進協議会 西脇市、丹波市、北播磨県民局、丹波県民局	●	●	
	(地元気運醸成) ○高校生等による取組 地元高校生デザインの「播州織中づくり広告」作成等により、利用促進を呼びかける。 ○沿線魅力情報発信 SNS等を活用し、沿線地域の魅力情報の発信を行う。					
	(啓発・PR) ○啓発・PR資材作成事業 ロゴマーク（利用促進協議会）を活用したPR資材を作成する。					
「JR加古川線リレーマルシェ」の開催	JR加古川線の鉄道利用促進を目指して、駅周辺でマルシェを開催する。	1,600千円	北播磨県民局、西脇市 地元自治会等団体等	●	●	
	(北播磨エリア) ・実施回数 年1回 ・場 所 駅周辺					
	(丹波エリア) ・実施時期 年1回 ・場 所 久下村駅周辺又は谷川駅周辺	1,500千円	久下自治振興会、丹波 県民局等			

令和8年度の取組

加古川線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
【新】北播磨「山田錦」列車発信事業	JR加古川線を活用した山田錦貸切列車を運行する。 ・実施時期 令和8年9月頃 ・内 容 山田錦基礎講座、山田錦の日本酒試飲、利き酒チャレンジなど	4,675千円	北播磨県民局		●	
通学定期券購入補助事業	通学定期券を購入する市内在住・在学の学生に対し購入費を助成する。(丹波市は在住のみ)	3,906千円	西脇市、丹波市	●		
通勤定期券購入補助事業	通勤定期券を購入する市内在住・在勤の者に対し購入費を助成する。	1,026千円	西脇市、丹波市	●		
定期券購入者への自転車貸出事業	通勤・通学定期券購入者へ自転車を無償で貸し出し、駅からの二次交通の確保につなげる。	270千円	西脇市	●		
駅等周辺駐車場利用料金助成事業	鉄道等の定期券購入者を対象に駅等周辺駐車場の利用料を助成する。	630千円	西脇市	●		
社会学習利用乗車券購入補助事業	小中高校やこども園などがJR加古川線を利用して行う社会学習活動に対し運賃の一部を助成する。	430千円	西脇市、丹波市	●	●	
団体利用乗車券購入補助事業	JR加古川線を団体利用する場合の運賃の一部を助成する。	1,000千円	西脇市、丹波市	●	●	
【新】西脇市駅管理事業 (トイレ改修工事)	西脇市駅トイレの改修工事を実施し、公共交通利用者の利便性の向上を図る。	6,223千円	西脇市	●		
JR加古川線地域活動活性化事業	地域住民団体がJR加古川線の利用促進や地域活性化にかかる事業を実施する。	1,000千円	JR加古川線(西脇市駅-谷川駅)維持・利用促進 地域協議会	●	●	
観光情報誌「西Navi」を通じた地域のイベント情報の発信	JR西日本全エリアの駅に配架されている西Naviを通じて、地域のイベント情報を発信する。	-	JR西日本		●	

(参考) JR加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道利用促進協議会事業

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
列車内鉄道絵画展	県内の園児・児童を対象に列車や駅をテーマにした絵画を募集し列車内絵画展を開催する。	—	交通事業者、商工会議所、市町、県		●	
鉄道沿線ガイドの発行	鉄道沿線で開催されるイベント等の魅力情報を掲載したガイドを発行する。	—	交通事業者、商工会議所、市町、県		●	
JR加古川線 厄神車両基地見学会	鉄道の良さや魅力を再発見してもらうことで、地域鉄道のファンを獲得し、利用促進につなげる。	—	交通事業者、商工会議所、市町、県	●	●	

令和7年度の主な取組結果

姫新線WT

R7の方向性

- 日常利用の促進：利用補助による利便性向上と利用者のマイレール意識の醸成
- 観光需要の促進：ひょうごフィールドパビリオン等の観光コンテンツの発掘や改良による利用促進
- まちづくりと一体となった魅力創出：社会活動家等と連携した沿線地域活性化の取組



【たつの市 屏風岩・鶴嘴山里公園ハイキング】



【佐用町 栗拾いツアーの様子】

R7の総括

- 駐車場等使用料助成や通学定期券購入助成事業を実施したほか、駅周辺の清掃活動等マイレール意識の醸成に向けた取組を進めた
- ひょうごフィールドパビリオン等沿線資源を利用したイベントを開催し観光需要の掘り起こしに寄与
- 地域の社会活動家を主体に商店街や地元自治会、沿線学校等と連携し取組を進めた



【マイレール月間（中吊り広告）】

令和7年度の主な取組結果

1 たつの市姫新線駅周辺駐車場等使用料助成事業

日常利用の促進

【概要】

事業内容 駐車場、駐輪場の月極使用料の**全部**または**一部助成**

特徴 市内の駅を起点又は終点の定期券利用者が対象

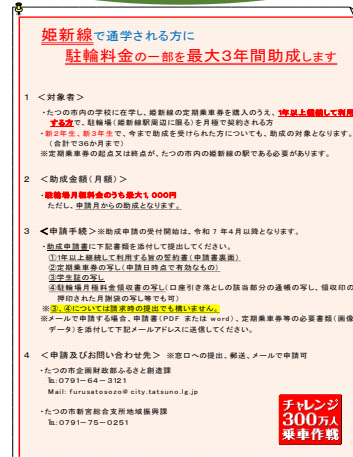
実施主体 たつの市 (R7予算: 3,056千円)

実施期間 令和7年度

実施結果 申請者: 175名 (R8.3月末)
通学: 156名 通勤: 19名

【実施状況・課題】 昨年度 (R7.3月末: 185名) と比較し減少したが、
通勤利用は増加している

【今後の展開】 引き続き事業を実施



【市内高校へのチラシ】



【R7広報誌】

2 佐用町姫新線等鉄道利用促進事業

日常利用の促進

【概要】

事業内容 ①佐用町大学生等通学定期券購入助成事業
佐用町内在住の大学生等の**通学定期券購入費用を助成**

特徴 姫新線降車後の他路線やバスも助成対象

実施主体 佐用町 (R7予算:6,000千円)

実施期間 令和7年度

実施結果 利用者数66名 (R8.3月末)
(R7.3月末: 62名)

【実施状況・課題】 昨年度と比較し、若干増加した

【今後の展開】 既利用者に対し後追い調査を実施

【概要】

事業内容 ②鉄道利用促進のための乗車券支給事業
佐用町内の駅から鉄道を利用する者に、
片道分※の乗車券を支給 ※津山～姫路間

実施主体 佐用町 (R7予算:800千円)

実施期間 令和7年度

実施結果 申請件数202件、利用者数701名 (R8.3月末)
(R7.3月末: 申請件数210件、利用者数815名)

【実施状況・課題】 昨年度と比較し申請件数、利用者数ともに減少したが、
イベントでの利用という新たな動きもあった

【今後の展開】 年齢制限の緩和を検討 (現在高校生不可)

令和7年度の主な取組結果

3 WESTERへの情報集約・発信

観光需要の増加

【概要】

事業内容 各自治体からご提供いただいた沿線の観光スポットやイベント情報を、JR西日本アプリ「WESTER」に集約して積極的に情報を発信

実施主体 JR西日本、沿線自治体

実施期間 通年

実施結果 たつの市：スポット11件、イベント8件
佐用町：スポット3件、イベント3件

【実施状況・課題】 イベント情報を継続して、ご提供いただいている



【アプリ画面】

4 姫新線車両基地ファミリー見学会

日常利用の促進

【概要】

事業内容 姫新線のご利用機会をつくり、親しみを持っていただくために余部車両基地内の見学及びお仕事体験イベントを実施

実施主体 姫新線利用促進・活性化同盟会、JR西日本

実施期間 11月22日

実施結果 参加人数：33組 101名（応募420組1358名）

【実施状況・課題】

- ・ 運転シミュレーター体験など、車両基地ならではのJRお仕事体験
- ・ 地元太市の竹を使ったモノづくり体験
- ・ 姫新線を利用することを参加条件として、会場と駅間で送迎バスを手配

【今後の展開】 来年度実施予定



【R7年度の様子】

5 姫新線で行くフィールドパビリオン体験ツアー

観光需要の増加

【概要】

事業内容 ひょうごフィールドパビリオンに認定されている西はりま天文台で「昼間の星と太陽の観察会」「夜間天体観望会」を実施

特徴 沿線の地域資源と姫新線を結んだイベント

実施主体 西播磨県民局（R7予算:246千円）

実施期間 12月6日

実施結果 31名

【実施状況・課題】 参加者アンケートにて9割の参加者がまた乗りたいと回答

【今後の展開】 アンケート結果をもとに姫新線の県内・外へのPRに役立てていく



【天体観測の様子】



【イベントチラシ】

6 沿線学生による「マイレール月間」の取組【新】

日常利用の促進

まちづくりと一体となった魅力創出

【概要】

事業内容 姫新線の主な利用者である学生自らが、利用促進や地域住民等への関心を高める取組を集中的に実施し、「マイレール=自分たちの鉄道」意識の醸成を図る

特徴 任意の1か月をマイレール月間とし、マイレール意識を高める取組を集中的に実施

実施主体 西播磨県民局（R7予算：385千円）

実施期間 令和7年度3月

実施結果 中づくり広告掲出、利用啓発講演会、駅周辺の清掃活動、ノベルティの作成・配布等を実施

【今後の展開】 利用者のマイレール意識の醸成を図れるよう引き続きマイレール月間を設け、集中的に利用促進に向けた取組を実施



【中吊り掲出画像イメージ】

令和8年度の取組

姫新線WT

R8の方向性

- 日常利用の促進：駅環境の充実や利用補助等による利便性向上と利用者のマイレール意識の醸成に取り組む
- 観光需要の促進：ひょうごフィールドパビリオン等沿線の地域資源を活用した利用促進
- 姫新線開通90周年を契機とした利用促進
：令和8年は姫新線開通90周年の節目を迎えることから各団体と連携して利用促進に取り組む



【千本駅駐車場整備（予定）】



【佐用高校生が作成した利用促進
パネル・ポスター】



【フィールドパビリオン体験ツアーの様子
（西はりま天文台）】

令和8年度の取組（一覽）

姫新線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
たつの市姫新線駅周辺駐車場等使用料助成事業	定期乗車券を購入し、姫新線を利用する方の駐車場又は駐輪場の月極使用料の一部を助成し、姫新線利用者の増加及びマイレール意識の醸成を図る （対象者） 播磨科学公園都市圏域内（たつの市、佐用町、宍粟市、上郡町）に在住又はたつの市内の事業所に勤務、若しくは学校に在学する者で、通勤、通学等のため、たつの市内に所在する駅を起点又は終点として姫新線を利用する者	2,616千円	たつの市	●		
【新】千本駅駐車場整備事業	千本駅の駐車場を改修	18,000千円	たつの市	●		
千本駅トイレ整備事業	千本駅のトイレを改修	20,000千円	たつの市	●		
たつの市民まつりにおけるPRブースの出店	たつの市民まつりにおいて、姫新線クイズや、利用啓発パネルを掲示し、来場者に姫新線をPR	同盟会予算	姫新線利用促進・活性化同盟会 （たつの市）		●	
屏風岩・鶴嘴山里公園ハイキング	JR姫新線東觜崎駅を出発し、因幡街道の宿場町の歴史に触れながら、寝釈迦の渡し・磨崖仏等のスポットを巡る冬の里山ハイキングを実施	同盟会予算	姫新線利用促進・活性化同盟会 （たつの市）		●	
姫新線を利用した遠足等のお菓子助成事業	姫新線を利用して遠足等を実施する市内のこども園にお菓子購入代金（1人につき200円程度）を支給	同盟会予算	姫新線利用促進・活性化同盟会 （たつの市）	●		

令和8年度の取組（一覧）

姫新線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
オータムフェスティバル協賛事業	姫新線で来場された方に地元特産品と交換できる引換券を配布し、姫新線利用促進と併せて、オータムフェスティバルへの誘客を図る	同盟会予算	姫新線利用促進・活性化同盟会 (たつの市)		●	
しんぐうふるさとフェスタ協賛イベント	姫新線を利用してイベントへ来場された方に播磨新宮駅にてノベルティを配布し、利用促進と併せてしんぐうふるさとフェスタへの誘客を図る	同盟会予算	姫新線利用促進・活性化同盟会 (たつの市)		●	
【新】姫新線開通90周年記念事業	姫新線の開通90周年を記念するイベントを実施	同盟会予算	姫新線利用促進・活性化同盟会		●	
佐用町大学生等通学定期券購入助成事業	佐用町内在住の大学生等の通学定期券購入費用を助成し、地域公共交通の利用促進と若者世代の本町への定住促進を図る (助成内容) 通学定期券1ヶ月分に対して、5,000円以下は全額を助成※5,000円を超える部分は2分の1の金額を助成(ただし、月額上限8,000円) (拡充内容) ①助成対象年齢を満25歳までに引き上げ(R5) ②一部助成対象外となっていた学校について、対象となるよう要件を見直し(R5)	6,000千円	佐用町	●		

令和8年度の取組（一覽）

姫新線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
鉄道利用促進のための乗車券支給事業	佐用町内の駅から鉄道を利用する団体に、片道分の乗車券を支給 令和5年度からは利用要件を緩和し、更なる利用促進を図っている (助成対象者) 2名以上 (対象区間) 姫新線：津山～姫路 智頭線：上郡～智頭 (申請期限) 利用日の2週間前まで (回数制限) 1人につき月1回まで (拡充内容) 年齢制限の緩和を検討	800千円	佐用町	●		
栗ひろいと佐用町を巡るツアー	沿線の観光施設を巡るツアーとして、秋期に栗ひろいや周辺の観光施設など秋を満喫するツアーを実施	同盟会予算		●		
佐用高校生等による利用促進活動への補助	佐用高校生等が取り組む利用促進活動（沿線でのイベント開催や利用促進啓発ポスター・パネル等の作成）への補助	同盟会予算				
駅施設へのポスター・チラシ掲出	鉄道利用促進に繋がるイベント等、ポスター掲出やチラシ配架の依頼があれば可能な範囲で協力	—	JR西日本及び各自治体	●		
南光ひまわり祭りでのおもてなし	姫路駅で一日駅長によるお見送りや名誉駅長（播磨徳久駅）と佐用町商工会合同のお迎えや案内を実施	—	JR西日本及び佐用町等		●	
姫新線車両基地ファミリー見学会	姫新線のご利用機会を作り、親しみを醸成するために余部車両基地内の見学及びお仕事体験イベントを実施		姫新線利用促進・活性化同盟会、JR西日本	●		

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
会員事業所への利用依頼及びHPによる広報活動	会員事業所に鉄道利用を促すチラシを配布するとともに、HPやSNSに掲載することで事業所（通勤者）の鉄道利用を促進	商工会予算	たつの市商工会	●		
会員事業所への姫新線利用呼びかけ	商工会HP、Facebook等のSNS及び会員へのDM発送により姫新線利用の呼びかけを実施する	—	佐用町商工会	●		
イベント列車の運行	姫新線と沿線地域の地域資源を結ぶユニークな沿線イベントを実施	396千円	西播磨県民局		●	
姫新線で行くフィールドパビリオン体験ツアー	姫新線沿線を利用した沿線地域のフィールドパビリオン体験ツアーを実施					
沿線学生による「マイレール月間」の取組	任意の1か月をマイレール月間とし、中吊り広告の掲出や駅周辺の清掃活動等の取組を集中的に実施	385千円	西播磨県民局	●		
岡山県との連携事業	岡山県美作県民局と連携して、駅等で相互PR資材の配架スペース設置や協力施設を増やす他イベントの相互出展を検討	80千円	西播磨県民局 美作県民局	●	●	
県民局職員による「月イチ！姫新線乗車大作戦」の推進	県民局職員に対し、月1回以上の姫新線乗車を呼びかける	—	西播磨県民局	●		
姫新線グッズ作成	各イベントで配布できるようなノベルティを作成・配布	同盟会予算	姫新線利用促進・活性化同盟会		●	
姫新線ファンクラブ	SNS「X」の公式アカウントのフォロワーを姫新線ファンクラブの会員と定め、姫新線に関する情報を随時発信し、親しみを持ってもらえるように運用	同盟会予算	姫新線利用促進・活性化同盟会	●	●	

令和 7 年度の主な取組結果等

播但線WT

R7の方向性

- 日常利用・観光利用の促進
- 駅整備等によるまちづくり施策との連携強化
- 生活利便性向上施策の促進
- マイレール意識の定着



【駅周辺整備事業】



【長谷駅利用促進事業】

R7の総括

- 輸送密度の向上
- 各沿線市町が実施する助成制度利用の定着
- 環境整備による駅周辺利便性の向上
- 団体・地元学生と一体になった利用促進施策の推進
- ガジロウを起用した広報等による沿線の一体感



【播但線鉄道整備・利用促進協議会の取り組み】

令和7年度の主な取組結果

1 JR利用促進補助金（3制度）

日常利用の促進

【概要】

- 事業内容 ①**特急はまかぜ利用促進補助金**
 ②**JR播但線利用促進補助金**
 ③**遠距離通勤・通学等補助金**

実施主体 神河町（R7予算：10,700千円）

実施期間 令和7年度

実施結果 ①230件(700千円)②2,383件(4,200千円)
 ③261件(3,395千円) ※3月25日時点

【実施状況・課題】HPや駅への申請書設置による周知により申請件数、新規利用者確保に取り組んだ。

【今後の展開】次年度事業継続に向けて、効果検証を行う。

制度	対象者	補助割合等
特急はまかぜ利用促進補助金	特急はまかぜを寺前駅で乗降利用する個人、又は団体	個人 1/2 : 年12,000円限度 団体 1/2 : 年48,000円限度
JR播但線利用促進補助金	新野駅・寺前駅・長谷駅からJR播但線を往復利用する者	普通乗車券購入費用の1/2 (月3,000円限度)
遠距離通勤・通学等補助金	新野駅・寺前駅・長谷駅を基点としてJR播但線を含む鉄道路線で50km以上通勤・通学する定期購入者 寺前駅から和田山駅間を利用して通勤・通学する定期購入者	月5,000円 (月額費用が5,000円未満の場合はその額)

2 長谷駅利用促進事業

観光需要の増加

まちづくりと
一体となった魅力創出

【概要】

事業内容 JR播但線長谷駅利用人数を増加させるため、長谷駅周辺でのイベント開催や、利用促進に繋がる取り組みを委託する。

実施主体 **長谷地区の振興を考える会**（R7予算：1,350千円）

実施期間 令和7年度

6月14日ホテル祭り、7月19日長谷駅前納涼祭り、11月23日紅葉ウォーキング
 毎月13日長谷駅快速列車全停記念日乗車

実施結果 イベントでの播但線利用者：217名

【実施状況・課題】各イベントごとに播但線利用者には、地区内で利用できる助成券を配布
 紅葉ウォーキングでは播但線に乗り移動するため大幅な乗車人数を確保した。

【今後の展開】新規のイベントを検討し更なる利用促進のため工夫をしていく。



3 特急はまかぜで行く城崎温泉日帰りツアー [新]

日常利用の促進

【概要】

事業内容 JR播但線利用促進事業の一環として、神河町民限定で**特急はまかぜを利用して城崎温泉へのカニツアー**を行う。

実施主体 神河町 (R7予算: 1,046千円)

実施結果 110名参加 (R7実績: 920千円)

実施期間 令和8年1月31日(土)

【実施状況・課題】 定員120名募集 →当日110名参加

【今後の展開】 特急はまかぜを含めた更なるJR播但線利用促進事業を進めていく

4 公共交通に対する意識醸成

日常利用の促進

まちづくりと
一体となった魅力創出

【概要】

事業内容 公共交通を維持・確保するためには、市民とともに公共交通対策に取り組むことが重要である。令和7年度も継続して「**公共交通はみんなで守っていくもの**」であるということを知り、認識いただく必要があり、**マイレール意識の醸成に向けた意識啓発**に取り組んだ。

特徴 環境フェスタ出展、生野高校「ゆめいくプロジェクト」、公共交通ワークショップ

実施主体 朝来市

実施期間 環境フェスタ: 8月3日、「ゆめいくプロジェクト」: 通年(12月19日成果発表)
ワークショップ: 3月7日

実施結果 公共交通ブースの出展、生野駅東口待合室の設計協働、市民ワークショップ実施

【今後の展開】 各種イベントへの出展や、公共交通ワークショップ、「ゆめいくプロジェクト」協力等市民の意識啓発を進めることができた。今後も継続的に実施する。



【環境フェスタ出展風景】



【ゆめいくPJ活動風景】49

令和7年度の主な取組結果

5 公共交通の利用促進

日常利用の促進

まちづくりと
一体となった魅力創出

【概要】

事業内容 各種助成制度の実施、公共交通情報誌の発行を行い、公共交通の利用促進に努める。

特徴 各種助成制度及び特急利用者パーク&ライドを実施

実施主体 朝来市

実施期間 令和7年度

実施結果 助成制度利用者：668名・17団体（R7.3.25時点）
パーク&ライド利用者：451名（R8.2月末時点）

【今後の展開】 助成制度の利用者は順調に推移しているが、制度によって利用者の差が激しい。パーク&ライドの対象を他の特急利用者にも広げる等、継続利用に繋がるよう制度の改善や広報に注力する。



【特急利用者専用パーク&ライド】



【公共交通情報誌 あさごナビ】

6 デマンド型乗合交通の活用

観光需要の増加

日常利用の促進

まちづくりと
一体となった魅力創出

【概要】

事業内容 市内公共交通の利便性向上と鉄道や路線バスからの2次交通の充実を図るため、市内全域でデマンド型乗合交通を段階的に導入

特徴 コミュニティバス運行から予約に応じて運行するデマンド型乗合交通へ転換

実施主体 朝来市

実施期間 令和7年度（令和8年2月末時点利用者：38,696名）

実施結果 令和6年度4月から段階的に導入し令和7年度から市全域で運行開始。
生野エリアでは24%がJRへの乗継利用。2次交通としても定着しつつある。

【今後の展開】 引き続き2次交通の一つとして、鉄道との組み合わせも含めた利用促進に努める。



【運行車両】

令和7年度の主な取組結果

7 播但線鉄道整備・利用促進協議会の取り組み

日常利用の促進

まちづくりと
一体となった魅力創出

【概要】

事業内容 昨年度に引き続き、**福崎町の「ガジロウ」を活用して広報活動を実施した**。本年度もJRに協力いただき、車内や駅構内での撮影を実施した。併せて、10月を「**播但線利活用月間**」とし集中的な利用促進を図った。

特徴 「ガジロウ」を活用した特色のある広報活動の実施

実施主体 播但線鉄道整備・利用促進協議会

実施期間 10月

実施結果 SNSを中心に広報展開し大きな反響があった。また、利活用月間においては、沿線市町でのイベントを中心とした取組を実施した。

【今後の展開】 引き続き広報活動及び「播但線利活用月間」を実施し、幅広い層への浸透を図る。



【令和7年度の様子】

8 駅周辺整備事業

日常利用の促進

まちづくりと
一体となった魅力創出

【概要】

事業内容 駅利用者の利便性向上を図るため、**和田山駅南ロータリーの改修整備、梁瀬駅前自転車等駐車場の新設等**、環境整備を行う。

実施主体 朝来市

実施期間 通年

実施結果 和田山駅南ロータリーは令和7年11月、梁瀬駅前自転車等駐車場は令和7年12月にそれぞれ供用を開始した。

【今後の展開】 引き続き駅利用者の利便性向上を図るため、必要な環境整備に努める。



【和田山駅南ロータリー】



【梁瀬駅前自転車等駐車場】

令和7年度の主な取組結果

9 JRローカル線駅周辺活性化モデル事業

観光需要の増加

日常利用の促進

まちづくりと
一体となった魅力創出

【概要】

事業内容 駅周辺活性化の取組を行う事業者、地域団体等に対する事業費の補助

特徴 JRローカル線の駅舎や駅周辺の遊休不動産等を活用し、**駅周辺に人の流れや賑わいを生み出す事業者、自治会等の地域団体、学校等の取組を支援**することにより、駅周辺の活力や魅力を向上させ、利用拡大を図る。

実施主体 兵庫県（市町協調）（R7予算：200千円×2）

実施期間 令和7年度

実施結果 一般社団法人寺前駅前銀座商店会「JR寺前駅利用促進イベント事業」、生野高等学校「高校生によるJR生野駅ブランディング事業」を採択
寺前駅前銀座商店会：8月30日に寺前駅前納涼まつり、10月5日に寺前銀座おもてなし祭を開催
生野高校：駅待合スペースに設置するベンチの制作及びノベルティグッズを作成

【実施状況・課題】 モデル事業開始より3年が経過し、活動団体が一定、地域に根差したと考えられる。

【今後の展開】 次年度は実施せず、全県的なPR活動に努める。



【寺前駅前納涼まつりチラシ】

10 播但線駅カードの作成【拡充】

観光需要の増加

日常利用の促進

【概要】

事業内容 播但線沿線市町と連携し**駅カード及びカードフォルダを作成・配布**することで駅カード獲得をきっかけとした播但線のさらなる利用者増と沿線地域への誘客を図る

実施主体 兵庫県（中播磨県民センター）

実施結果 令和7年度は生野駅から和田山駅までを追加したコンプリート版を作成し、令和7年3月25日から各観光協会等にて配布

【今後の展開】 今後も各観光協会での状況を調査し、状況にあわせて増刷を検討するなど、引き続き利用者増に繋がる当事業を進めていく



【今年度の駅カード及びカードフォルダ】

令和7年度の主な取組結果

11 WESTERへの情報集約

観光需要の増加

【概要】

事業内容 各自治体からご提供いただいた沿線の観光スポットやイベント情報を、JR西日本アプリ「WESTER」に集約して積極的に情報を発信する。

実施主体 JR西日本、沿線自治体

実施期間 通年

実施結果 朝来市：スポット15件(15件)、イベント15件(13件)
 神河町：スポット8件(8件)、イベント4件(4件)
 ※ ()内は5月時点

【実施状況・課題】 イベント情報を継続して、ご提供いただいている。



12 かにカニはまかぜ・はなあかりの運行

観光需要の増加

【概要】

事業内容 臨時特急「かにカニはまかぜ」に「地域の華を列車に集め、お客様と地域の縁を結ぶ列車」をコンセプトにした観光列車「はなあかり」を増結することで、北近畿への旅をゆったりと贅沢にお楽しみいただく。

特徴 車内で兵庫県内の工芸品・アート作品を展示

実施主体 JR西日本

実施期間 1月5日～3月8日の月・金・土・日曜日

【実施状況・課題】 新聞やテレビに取り上げられ話題作りができています。

【今後の展開】 観光列車等を通じて、地域の魅力を発信していく。



【昨年度の様子】

令和7年度の主な取組結果

13 利用促進リーフレットの作成 [新]

観光需要の増加

【概要】

事業内容 普段鉄道をご利用されていない住民の皆さまに向けて、沿線のお出かけスポット、施設と共に播但線(寺前～和田山)の置かれている現状を知っていただくことで利用促進に繋げるリーフレットを作成

実施主体 JR西日本、沿線自治体

実施期間 6月～3月

【今後の展開】

今年度末を目途に公共施設等に配架する。



14 ご利用実態調査 [新]

観光需要の増加

【概要】

事業内容 乗車駅・降車駅、目的、利用頻度、二次交通等についてのアンケート調査を実施。併せて、ノベルティを配布し、鉄道利用の呼びかけを実施

実施主体 JR西日本

実施期間 10月9日(木)、10日(金)、11日(土)、12日(日)

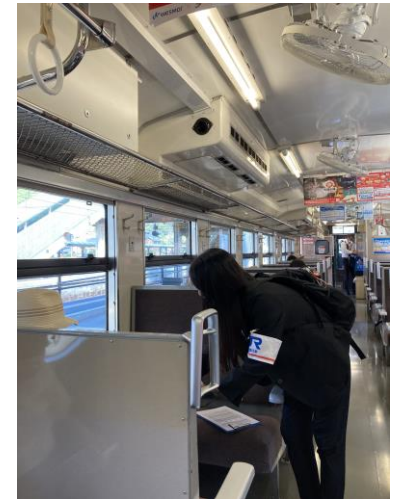
実施結果 アンケート獲得数=1085人、獲得率=30.1%
 ・平均乗車人数/日(平日923.5人、休日879.5人)
 ・最大乗車人数/1列車(平日111人、休日82人)
 ※特急列車除く。

【実施状況・課題】

鉄道をご利用されていない地域の方々への利用促進の呼びかけが必要である。

【今後の展開】

昨年度、今年度のご利用実態調査の結果をまとめ、播但線(寺前～和田山)の現状分析に活かす。



令和8年度の取組

播但線WT

R8の方向性

- 日常利用の定着と観光利用の拡大
- 駅整備等によるまちづくり施策との連携強化
- 播但線全線開通120周年 マイレール意識の定着
- 利用促進施策の効果検証



【公共交通情報誌 あさごナビ】



【播但線駅カード】



【但馬周遊観光バス「たじまわる」】



【生野高校ゆめいくプロジェクト】

令和8年度の取組検討項目（一覧）

播但線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
JR利用促進補助金(3制度)	①特急はまかぜ利用促進補助金②JR播但線利用促進補助金③遠距離通勤・通学等補助金	10,641千円	神河町	●		
長谷駅利用促進事業	「長谷地区の振興を考える会」に長谷駅の利用促進を図るための事業実施を委託	1,250千円	神河町	●		●
公共交通に対する意識醸成	「公共交通はみんなで守っていくもの」というマイルール意識の醸成に向けた意識啓発に取り組む。公共交通ワークショップ、公共交通通勤ウィーク等を実施	178千円	朝来市	●	●	●
公共交通の利用促進	各種助成制度の実施、公共交通情報誌の発行を行い、公共交通の利用促進に努める。	693千円	朝来市	●		●
特急はまかぜ利用促進補助金 特急利用者専用パーク&ライド	特急はまかぜの利用者に対する補助金及び特急利用者専用パーク&ライド駐車場の確保	1,517千円	朝来市	●		
JR播但線団体利用促進補助金	播但線の普通列車を4人以上の団体に利用した場合に支給する補助金の実施	107千円	朝来市		●	
公共交通通勤利用助成金 (補助金・奨励金)	通勤時に鉄道や路線バスを定期利用している者又は企業等に対して支給する、補助金・奨励金の実施	420千円	朝来市	●		

令和8年度の取組検討項目（一覧）

播但線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
駅周辺駐車場利用料金助成事業補助金	JR西日本の通勤定期券を購入して鉄道を利用し、市内駅周辺の月極駐車場を利用する市民に対する駐車場利用料金の補助の実施	100千円	朝来市	●		
デマンド型乗合交通の活用	市内全域で導入されたデマンド型乗合交通を活用し、2次交通の充実を図る。	118,467千円	朝来市	●	●	●
情報発信	ケーブルテレビや市広報誌、SNSなどの情報媒体を使った情報発信の実施	—	朝来市	●		●
利用促進	市民・行政・交通事業者の3者が一体となった利用促進の実施(市職員による利用促進の取組など)	—	朝来市	●	●	●
播但線鉄道整備・利用促進協議会の取り組み	福崎町の「ガジロウ」を活用した広報活動や特定期間を「播但線利用月間」として集中的な利用促進を図る。	—	播但線鉄道整備・利用促進協議会	●	●	●
【拡】JR生野駅東口待合室改修事業	JR生野駅東口待合室を中高生や地域住民の意見を取り入れながら改修し、鉄道利用者の利便性向上を図る。	19,225千円	朝来市	●		●
JR和田山駅周辺整備事業	JR和田山駅周辺において、南北自由通路並びに駅北側ロータリーの基本設計を実施し、和田山駅利用者の利便性向上に向けて調整を進める。	69,630千円	朝来市	●		●

令和8年度の取組検討項目（一覧）

播但線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
レンタサイクル利用補助事業	兵庫県但馬・鳥取県東部地域の交通・観光連携協議会等と連携して京阪神からの鉄道利用者の2次アクセスを充実 【期間】8月～11月	216千円	兵庫県但馬・鳥取県東部地域の交通・観光連携協議会 但馬地域鉄道利便性向上対策協議会 等		●	
【新】但馬地域公共交通フォーラム	令和7年度但馬地域公共交通勉強会で育成された人財が他分野共創・市町間連携を主導するにあたり、施策の検討材料となるような、有識者を招いた講演・パネルディスカッションの実施を検討中。	750千円	但馬地域鉄道利便性向上対策協議会	●	●	
【新】山陰本線・播但線フォトコンテスト	JR山陰本線・播但線沿線地域の魅力が伝わる写真を募集しフォトコンテストを開催する。		但馬地域鉄道利便性向上対策協議会	●	●	
但馬周遊観光バス「たじまわる」の運行	○JR各駅等と観光地を結ぶガイド付き観光バス「たじまわる」の運行を軸に、主要観光地の二次交通を確保 ○ガイド無料や観光施設入館無料など、立ち寄り先での特別体験を企画	12,904千円	但馬観光協議会		●	
【新】JRローカル線利用促進イベントにかかる効果検証アンケートの実施	令和7年度JRローカル線維持・利用促進協議会において、「利用促進事業の効果検証が必要」との意見が出たことをふまえ、利用促進イベント開催時における参加者へのアンケートを実施	—	兵庫県	●	●	

令和8年度の取組検討項目（一覧）

播但線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
【新】播但貫く、周遊型・謎解きスタンプラリー	中播磨・但馬地域でフィールドパビリオンや観光地を巡る謎解きスタンプラリーを実施。鉄道利用をスタンプ獲得条件にする等の利用促進の仕掛けを検討している。	5,434千円	兵庫県 (但馬県民局・中播磨県民センター)		●	
播但線駅カードの作成	駅カード及びカードフォルダを追加発行	500千円	兵庫県 (中播磨県民センター)	●	●	
観光情報誌「西Navi」を通じた地域のイベント情報の発信	JR西日本全エリアの駅に配架されている西Naviを通じて、地域のイベント情報を発信	—	JR西日本		●	
かにカニはまかぜの運行(予定)	冬季に臨時特急「かにカニはまかぜ」を運行	—	JR西日本		●	
沿線行事のPR	沿線行事のポスター・パンフレット等を駅に掲出	—	JR西日本		●	

令和7年度の主な取組結果等

赤穂線WT

R7の方向性

- 東備西播定住自立圏域JR利用促進協議会の取組の推進
- JR赤穂線沿線地域活性化連絡会議の取組の推進
- 岡山県赤穂線WTへの参加・利用促進策への協力

R7の総括

- 東備西播定住自立圏域JR利用促進協議会
 - ・・・フォトコンテスト開催
 - ・・・沿線イベント広報誌PR
 - ・・・JR西日本岡山支社、兵庫支社へ要望
- JR赤穂線沿線地域活性化連絡会議
 - ・・・TikTokを活用した情報発信
 - ・・・かきPR事業
 - ・・・まちあるき関連事業経費支援
 - ・・・イベント経費支援事業
- 赤穂線WT
 - ・・・通勤定期モニターの実施



【フォトコンテストの開催】



【かきめぐりのPRチラシ】

1 沿線イベント広報誌PR

観光需要の増加

【概要】

事業内容 JR赤穂線・山陽本線沿線で開催されるイベントにあわせて、圏域市町の広報誌にイベント情報を掲載

特徴 上郡町・赤穂市・備前市のJR沿線イベントの周知

実施主体 東備西播定住自立圏域JR利用促進協議会

実施期間 5月・6月・8月・11月・12月・1月・2月

実施結果 広報誌に載せたイベント総数：15件

【実施状況・課題】 イベント発表時期と広報誌の発行時期のずれ等で掲載できないタイミングもある。

【今後の展開】 イベントのみに限らず、定期的にJRに乗ってもらえるような広報を行いたい。



東備西播定住自立圏 圏域イベント情報

東備西播定住自立圏域JR利用促進協議会事務局(企画政策課)
TEL 43・6867 FAX 43・6822

備前▽日生大橋マラソン 2025

- 開催日 3月9日(日)(雨天決行)
 - 会場 日生病院前特設会場発着(備前市日生町寒河 2570-41)
 - 参加資格 小学生以上で健康に自信があり、自力で制限時間内に完走できる人。
 - 申込期間 インターネット 1月30日(木)まで
郵便振替用紙 1月16日(木)まで(当日消印有効)
- ※定員になり次第、締め切ります。

●問い合わせ先

大会内容: 備前▽日生大橋マラソン実行委員会事務局(備前市文化スポーツ振興課内)
TEL 0869・63・3813 開行日の午前8時半～午後5時15分
エントリー: 備前▽日生大橋マラソンエントリー事務局
TEL 0794・70・8200 平日の午前9時～午後5時
※来場の際は、ぜひ、JRをご利用ください。



ゲスト
友友梨佐さん

詳細は備前市ホームページをご確認ください。



2 JR赤穂線・山陽本線Instagramフォトコンテスト2025

観光需要の増加

【概要】

事業内容 JR赤穂線・山陽本線の車窓や駅構内から撮影したフォトコンテストの開催

特徴 インスタグラムを使ったフォトコンテストを開催することで沿線の魅力を広く発信

実施主体 東備西播定住自立圏域JR利用促進協議会

実施期間 9月1日～11月30日

実施結果 応募総数 153件

【実施状況・課題】 沿線の魅力をより多く発信するためには参加者数の拡大が重要となる。

【今後の展開】 引き続き実施予定。

～JR赤穂線・山陽本線Instagramフォトコンテスト2025～

未来へ受け継ぐ 車窓からの風景

募集期間 2025年9/1～11/30

必ず協議会公式アカウント @tobuhaeban をフォロー！

協議会の公式アカウントをタグ付けし、キャプションに写真のタイトル、撮影場所、ハッシュタグ「東備西播定住自立圏域JR利用促進協議会」を記入して写真を投稿！

アワード
1位: 10万円
2位: 5万円
3位: 3万円
その他: 1万円

撮影期間 2024年12月1日～2025年11月30日の間に撮影した写真

その他詳細はこちら↓

主催: 東備西播定住自立圏域JR利用促進協議会
事務局: 備前市 企画政策課 (0869-64-1892)

3 フォトコンテスト写真展

まちづくりと
一体となった魅力創出

【概要】

事業内容 JR赤穂線・山陽本線インスタグラムフォトコンテスト2025における入賞写真の展示会を開催

特徴 備前市役所1階のエントランスにて入賞写真を展示

実施主体 東備西播定住自立圏域JR利用促進協議会

実施期間 令和8年1月23日～2月17日

実施結果 備前市役所の来庁者に対して、沿線の魅力を発信することができた。

【実施状況・課題】 より多くの方に来場してもらえるよう、会場の選定や周知方法の工夫が必要。

【今後の展開】 引き続き実施予定



4 JR西日本への要望活動

日常利用の促進

観光需要の増加

まちづくりと
一体となった魅力創出

【概要】

事業内容 JR西日本岡山支社、兵庫支社に対して要望書の提出、意見交換を行う

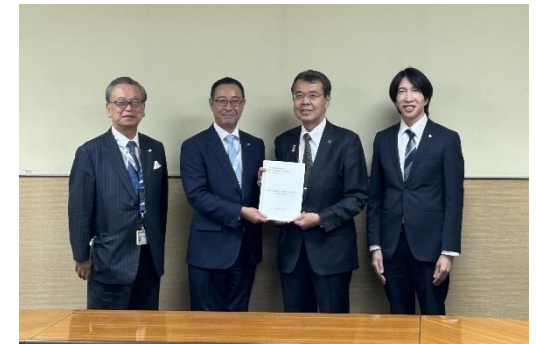
特徴 各首長がそれぞれの地域の現状を踏まえ、課題や意見などを直接述べる

実施主体 東備西播定住自立圏域JR利用促進協議会

実施期間 岡山支社：11月18日、兵庫支社：12月23日

【実施状況・課題】 毎年、JR西日本岡山支社、兵庫支社に対して要望を行っているが、要望内容については現時点で実現に至っていない。

【今後の展開】 要望内容の実現に向けて、今後も地域のニーズや利用状況を踏まえながら、継続的に協議を進めていく。



5 国内向け情報発信事業

日常利用の促進

観光需要の増加

【概要】

- 事業内容** TikTok等を活用し、JR赤穂線沿線の魅力を発信する
- 特徴** 若年層の情報源となっているTikTok等のショート動画を活用し、10代後半～20代に対してJR赤穂線沿線地域の魅力を発信する。
- 実施主体** JR赤穂線沿線地域活性化連絡会議
- 実施期間** 令和7年7月30日～令和8年2月28日
- 実施結果** 相生駅、西相生駅、坂越駅、播州赤穂駅、日生駅（2本）、伊部駅、長船駅、邑久駅、路線全体の計10本投稿。最多再生回数は路線全体動画の約50万回再生。（令和8年3月9日時点）



【実施状況・課題】 構成団体と連携し、更なる認知度向上と広域PRを図る。

【今後の展開】 引き続き実施予定

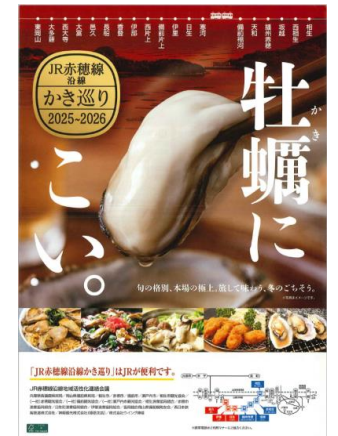
6 かきシーズンPR事業

観光需要の増加

まちづくりと一体となった魅力創出

【概要】

- 事業内容** JR赤穂線沿線地域の牡蠣プロモーション「かきめぐり」の実施
- 特徴** PRポスター及びチラシを作成し、主要駅舎等に掲出及び構成団体によるPR活動を実施。
- 実施主体** JR赤穂線沿線地域活性化連絡会議
- 実施期間** 令和7年11月1日～令和8年2月28日
- 実施結果** 管内の主要観光施設やJR西日本近畿統括本部及び岡山支社管内主要駅等において、ポスターの掲出及びチラシの配架を行った。



【実施状況・課題】 牡蠣不漁によるイベント中止で広報内容との乖離が生じ、情報更新の柔軟性が課題となった。

【今後の展開】 関係団体と協議の上決定

7 JR赤穂線駅発まち歩き関連事業への支援

日常利用の促進

まちづくりと
一体となった魅力創出

【概要】

事業内容 構成団体等が主催するJR赤穂線沿線地域への集客と活性化に資すると認められる「まち歩き事業」及びその広報に係る経費助成

特徴 JR赤穂線沿線地域活性化連絡会議の構成団体が主催する事業について、上限10万円、各市町開催1回を限度として助成。

実施主体 JR赤穂線沿線地域活性化連絡会議

実施期間 令和7年4月～令和8年3月

実施結果 4団体への支援を実施



【実施状況・課題】 支援予定であった事業が中止となった場合の経費支援の取扱い

【今後の展開】 引き続き実施予定

○ J R 赤穂線通勤定期モニター

1 概要

通勤に係る利便性向上や、マイカーから J R への通勤方法転換に対する潜在的ニーズを調査するため、定期券のモニター事業を実施した。

◆対象者

- ・岡山県内の J R 赤穂線沿線企業等に勤務し、現在マイカー通勤をしている方
- ・利用期間中に 10 日以上 J R 通勤することが可能な方

◆モニター概要

- ・ J R 通勤定期券（1 箇月）
（ J R 赤穂線：岡山～相生間）を無料提供
- ・モニター終了後、アンケート調査に回答

◆実施期間

- ・モニター募集期間
令和7年11月1日～令和8年1月15日
- ・モニター定期券利用可能期間
令和7年11月17日～令和8年2月28日

JR定期券を無料提供します！ 先着20名様限定

**JR赤穂線を使ってください！
通勤定期モニター募集**

（岡山市） （瀬戸内市） （備前市） （赤穂市） （相生市）

岡山 西川原 高橋 赤穂山 大塚 西大寺 大塚 赤穂 高橋 伊豆 西戸上 備前川 伊豆 日王 備前 赤穂 相生

※2025年3月現在の状況

JRでの通勤を試してみませんか？移動時間を有効に活用できます！
使用したICOCAはプレゼント！

◆対象者
・岡山県内のJR赤穂線沿線企業・官公庁に勤務し、現在マイカー通勤をしている方
・利用期間中に10日以上JR通勤することが可能な方（休日にも積極的にご利用ください）

◆モニター概要
・1カ月のJR通勤定期券（JR赤穂線：岡山～相生間※）を無料提供
・モニター終了後、アンケート調査に回答
※提供する通勤定期券は、ご自宅最寄り駅～勤務先最寄り駅となります。
※本事業はJR赤穂線（岡山～相生）を対象区間としていますが、JRの他路線から赤穂線へ乗り継ぐ場合も対象とします。
（例）倉敷⇨西大寺（山陽本線⇨赤穂線）

◆実施目的
・当事業は、JR赤穂線利用促進の一環で、通勤に係る利便性向上や、マイカーからJRへの通勤方法転換に対する潜在的ニーズを調査するために実施するものです。

◆実施期間
・モニター募集期間 令和7年11月1日～令和8年1月15日
・モニター定期券利用可能期間 令和7年11月17日～令和8年2月28日
※利用開始日の2週間前までに申し込んでください。
※モニターが20名に達した時点で募集を終了いたします。

◆申込方法
・WEB、FAX、郵送、いずれかの方法による
※詳細は裏面をご確認ください。

◆申込・問合せ
岡山県JR在来線利用促進検討協議会 赤穂線ワーキングチーム
岡山市北区内山下2丁目4番6号 岡山県県民生活部 交通政策課
TEL 086-226-7291 FAX 086-232-5354

岡山県JR在来線利用促進検討協議会 赤穂線ワーキングチーム

2 協力企業・官公庁関係先

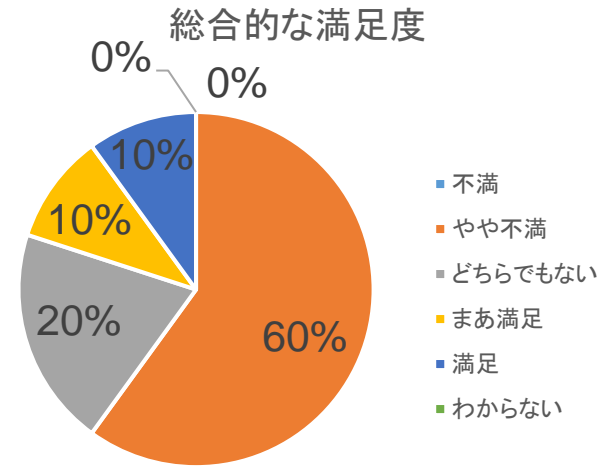
岡山市5箇所、瀬戸内市6箇所、備前市5箇所の企業・官公庁に協力依頼、参加呼びかけを行った。

3 申込結果（計10名）

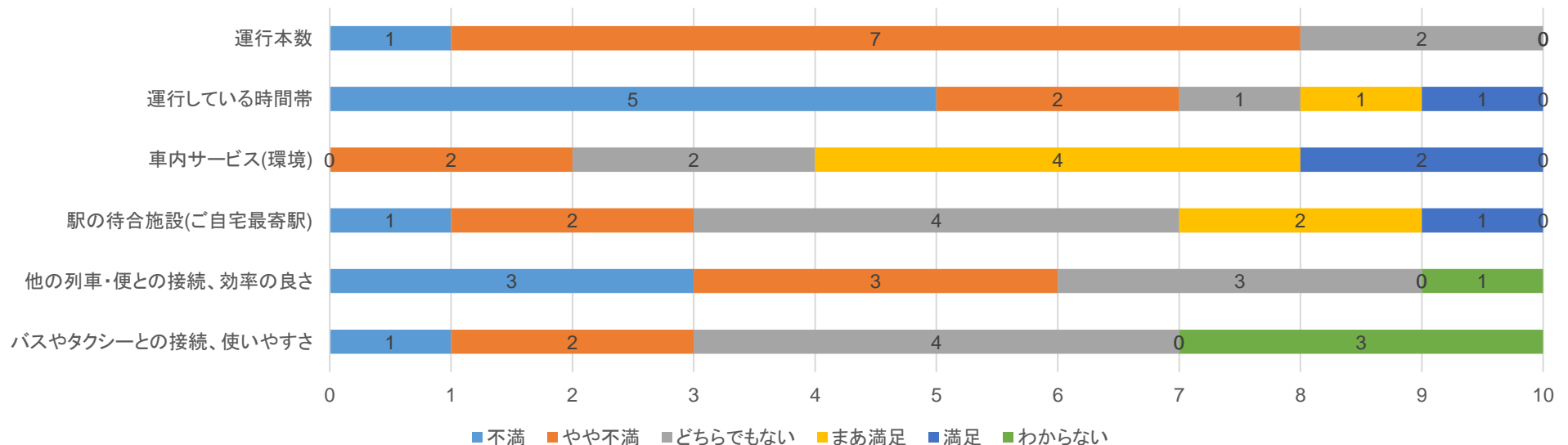
20名の目標に対し、10名の申込にとどまった。年齢別では50代が最も多く、6名であった。

4 赤穂線の満足度

やや不満と回答した方が60%であり、満足、まあ満足と回答した方は20%にとどまった。項目別では、運行本数について不満、やや不満と回答した方が80%であった。



赤穂線の満足度(各項目)



○通学定期券の出張販売

備前緑陽高校、邑久高校において、新一年生を対象とした通学定期券の出張販売を実施（実施日：4月9日、販売実績：2校合わせて155枚）

○チラシ(赤穂線サポートブック)の作成・配布

折りたたむと、鉄道通学に役立つ情報をまとめた「サポートブック」になるチラシを作成し、沿線の高校を通じて生徒に配布

○ポスターの掲示

学校の最寄り駅(西大寺駅、邑久駅、香登駅、西片上駅)にポスターを掲示し、高校生の利用が地域の大切な行動手段である鉄道を守ることにつながることを啓発

JR赤穂線
サポートブック
(2025年版)

便利なアプリのご紹介
移動生活ナビアプリ WESTER
WESTERアプリダウンロード後は「マイ駅登録」
JR西日本 列車運行情報アプリ

こんなときは…
列車は時間どおりに運行してる？
列車に忘れ物をした！
列車が遅れて学校に間に合わない！
ICOCA定期券を無くした！

駅とYの警の警署連絡手帳・警備部点検

JR赤穂線沿線の高校に通う皆さんへ

いつも赤穂線をご利用いただき、ありがとうございます。

実はですが、赤穂線の利用者半数以上が、高校・学生のお客さんなんです。

（平成27年）の調査結果から、約6割にわたって、赤穂線沿線の高校に通う皆さんが、列車を利用していることが、地域の大変な行動手段である赤穂線を守ることに繋がっています。

これからも、ぜひ通学や部活、お友達や家族、お出かけなど、色々な機会に赤穂線をご利用ください。楽しい思い出もたくさんつくってください。

皆さんの高校生活が、思い思いの高校生活になるよう、これからも頑張ります。

岡山県JR赤穂線沿線関係者協議会 赤穂線ワーキングチーム（岡山県・岡山市・備前市・瀬戸内市・伊豆田町）

令和8年度の取組

赤穂線

R8の方向性

- 東備西播定住自立圏域JR利用促進協議会の取組の推進
- JR赤穂線沿線地域活性化連絡会議の取組の推進
- 岡山県赤穂線WTへの参加・利用促進策への協力

R8の計画

- 東備西播定住自立圏域JR利用促進協議会
 - ・・・フォトコンテスト開催
 - ・・・沿線イベント広報誌PR
 - ・・・JR西日本岡山支社、兵庫支社へ要望
- JR赤穂線沿線地域活性化連絡会議
 - ・・・SNS等を活用した情報発信
 - ・・・かきPR事業
 - ・・・まちあるき関連事業経費支援
 - ・・・イベント経費支援事業
- 赤穂線WT
 - ・・・通勤定期モニターの実施

令和8年度の取組（一覧）

赤穂線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
沿線イベント広報PR	JR赤穂線・山陽本線沿線で開催されるイベントにあわせて、圏域市町の広報誌にイベント情報を掲載し、JRの利用促進を図る。	0千円	東備西播定住自立圏域 JR利用促進協議会		●	●
JR赤穂線・山陽本線Instagramフォトコンテスト2026	Instagramを活用して、JR赤穂線・山陽本線の車窓や駅構内から撮影した写真のフォトコンテストを開催する。	220千円			●	●
JR赤穂線・山陽本線Instagramフォトコンテスト2026 写真展	JR赤穂線・山陽本線Instagramフォトコンテスト2026における入賞写真の展示会を開催することで、来場者に対して、沿線の魅力を発信する。	50千円			●	●
JR西日本岡山支社、兵庫支社への要望	地域のニーズや利用状況を踏まえ、利便性の向上に向けた要望書を、JR西日本岡山支社及び兵庫支社へ提出する。	100千円			●	●

令和8年度の取組（一覧）

赤穂線

項目名	概要	予算	実施主体	取組の区分		
				日常利用	観光需要	まちづくり
SNS等による魅力情報発信事業	SNS等を活用し、JR赤穂線沿線のレトロな風景や面白スポットを発信する。	2,000千円	JR赤穂線沿線地域活性化連絡会議	●	●	
かきシーズンPR事業	牡蠣プロモーション「かきめぐり」PRポスター及びチラシを作成し、主要駅舎等に掲出・配架をしPRを実施する。	1,000千円			●	●
まち歩きPR経費助成	JR赤穂線沿線地域への集客と活性化に資すると認められる、連絡会議構成団体等が主催する「まち歩き事業」及びその広報に係る経費について10万円を上限とし4団体に助成する。	400千円		●		●
イベント開催経費助成	JR赤穂線沿線地域への集客と活性化に資すると認められる、連絡会議構成団体等が主催する事業及びその広報に係る経費について15万円を上限とし4団体に助成する。	600千円		●		●

赤穂線WTの令和8年度 取組方針

1 定期券モニター等に係る取組の検討・実施

令和7年度の結果を踏まえ、定期券を活用した事業の方向性等を改めて検討する。

○ターゲットを明確にし、効果的な取組を検討・実施

2 学生向けの取組の継続

引き続き、4月に学生向けの取組を実施する。

○チラシ(赤穂線サポートブック)の作成・配布

チラシの内容を更新し、沿線の高校を通じて生徒に配布

○通学定期券の出張販売

備前緑陽高校、邑久高校において、新一年生を対象とした通学定期券の出張販売を実施

広域的な取組

➤ 2025年大阪・関西万博に合わせて、国内外の多くの人を誘い、見て、学び、体験していただく「ひょうごフィールドパビリオン」を展開

認定数

認定プログラム数：**268**※件



ひょうご
フィールドパビリオン

※万博期間中の登録数

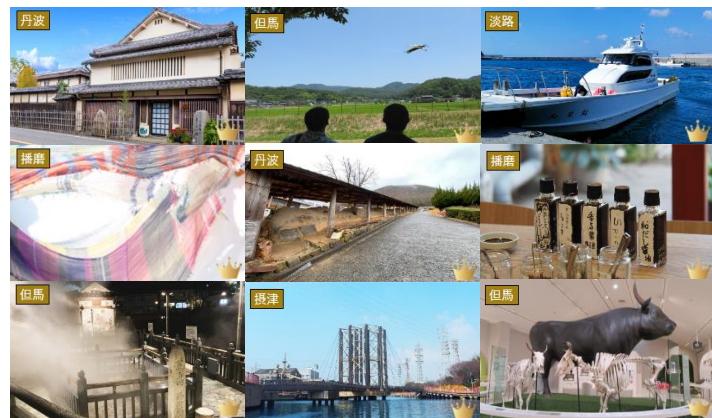
(うちプレミア・プログラム※：9件)

※認定プログラムのうち、特に地域の核となる取組

実施結果等

○来訪者の満足度

- ・「SDGs の理解が深まった」と思う来場者の割合 80%
- ・「兵庫をまた訪れたい」と思う来場者の割合 80%



ひょうごフィールドパビリオンを基盤とした万博関連事業の展開により、新たな価値の創出と交流人口の拡大、ふるさとの魅力の再評価、県内・国内外の様々な主体との連携、子どもたちの参画などの成果が生まれた。

ひょうご
フィールドパビリオン

🔍 プログラムを検索

Language ▾

☰ MENU

姫新線で巡る兵庫・岡山ローカル線の旅

2026年に90周年を迎える「JR姫新線」で巡る1泊2日のローカル線の旅。初日は、西播磨のひょうごフィールドパビリオンを中心にMyようゆう作り体験や昼間の天体観察をした後、湯郷温泉に宿泊。2日目は津山を中心に、津山まなびの鉄道館で鉄道車両の見学や、津山城、城東重要伝統的建造物群保存地区の散策を楽しみます。

所要時間	交通手段	予算目安
1泊2日	公共交通機関(タクシー含む)	時期による

●発祥LabCoo (ようゆう作り)

●西はりま天文台(天体観察)

●紙すき文化伝承館(紙すき体験)

●湯郷温泉(宿泊)

●津山まなびの鉄道館(見学)

(出典：ひょうごフィールドパビリオン 公式HP)

2025

7/21 月祝

午前の部：浜坂駅集合 09:30 / 解散 12:10
午後の部：浜坂駅集合 12:40 / 解散 15:40

車内体験プログラム

城崎温泉駅での特別体験

車内ワークショップ

運転席見学やJR職員による特別レクチャーを実施します

親子で観察ミッションに挑戦。土とスポットで記念撮影も！

親子で今日の体験をまとめて修了証書授与をします！

◎参加申し込み

参加費：無料
定員：各回親子7組限定
集合場所：JR浜坂駅 (〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂)
貸切車両での運行区間：浜坂駅 ⇄ 城崎温泉駅

こちらのサイトから事前申込をお願いします

主催：兵庫県・こどもCandy



【特徴的な取組み】

親子でJR山陰本線の魅力や地域での役割を体験的に学び、公共交通への理解と親子の絆を深めるイベント「親子でJRローカル探検隊」を、子ども起業家体験として実施した。浜坂駅～城崎温泉駅間で臨時列車を2便(各回7組限定)運行し、車内イベントを通して山陰沿線への理解を深めた。

- 日 時 令和7年7月21日 午前の部:9:30~12:10 午後の部:12:40~15:40
- 参 加 50人(うちこども31人)
- 内 容 車窓ビンゴ、ジオガイド特別講話、職員との質問コーナー等



▲JRローカル探検隊の様子

(出典：大阪・関西万博に向けた
兵庫県の取組検証結果報告書)

▶有識者によるご提案の実践

各路線の**魅力発信・プロモーションの展開**による**JRローカル線利用の啓発**

アゲていこう冬兵庫 冬のごほうび旅キャンペーン

実施概要：JR西日本とひょうご観光本部が連携し、兵庫県の「冬の魅力」を体験する旅企画。冬でも安心な公共交通を利用して県内周遊を促すことを目的。

実施期間：1月13日～2月28日

実施内容：各地域での飲食・体験・購買などの消費拡大を促し「兵庫をめぐる楽しさ」と「地域でのごほうび体験」を実感する2つの企画を実施。

①「冬のごほうびスタンプ！」・・・周遊きっぷ購入者が参加可能

②「冬のごほうびBINGO！」・・・どなたでも参加可能

- ・各条件達成で、WESTERポイントの付与、特産品等を贈呈。
- ・北部版では、県内ローカル線の一部の駅が「スポット」として登録。

【山陰線】浜坂駅・香住駅・餘部駅・城崎温泉駅・豊岡駅

【播但線】竹田駅・生野駅

【加古川線】久下村駅・日本へそ公園駅

【姫新線】佐用駅・上月駅

【赤穂線】播州赤穂駅

実施結果：「冬のごほうびBINGO (北部版)」1つ以上スタンプを押印した参加者数 **4,175**人
うち、JRローカル線スタンプ押印者総数 **973**人

考察と課題：○駅利用を条件にするBINGOマスを配置することで、駅起点の行動が促された。また北部版ではローカル線利用が必須となるBINGO達成者が多く、**地方線への誘客に効果を発揮**した。

○「たんば恐竜博物館」「にしわき経緯度地球科学館『テラ・ドーム』」「城崎マリンワールド」「玄武洞ミュージアム」などの**体験施設が、駅からの寄り道先として強く機能**。



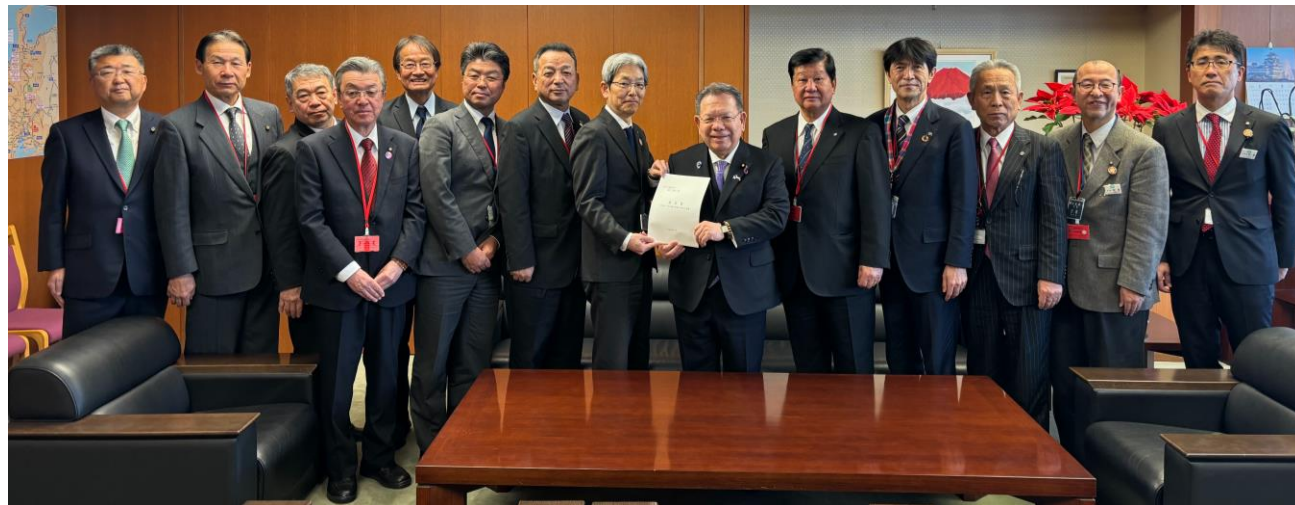
駅名 (一部のみ掲載)	スタンプ押印者数
城崎温泉駅	271人
竹田駅	117人
生野駅	117人
日本へそ公園駅	107人
久下村駅	98人
浜坂駅	75人



➤ 服部副知事、JRローカル線維持議員連盟〔内藤県議・石川県議〕、安達技監、宇野土木部長及び沿線の首長・議長による**JRローカル線への財政支援・利便性向上への積極的関与**などを要望

国土交通省 酒井副大臣への要望

実施日：令和8年1月29日



酒井副大臣より

- 要望内容について、しっかりと話をさせていただく。
- 地方の実情を踏まえて取り組んで参りたい。

国土交通省 鉄道局との意見交換

実施日：令和8年1月29日



鉄道局 田島官房審議官

- 地域においてそれぞれ工夫をしながら熱意をもって利用促進に取り組んでいることに敬意を表したい。
- 要望事項をしっかりと受け止める。

➤ JRローカル線の利用促進に関する助成制度やイベント開催について
一人でも多くの県民に知っていただくために各県民局・県民センタートップページにバナーを配置

ホームページ掲載内容

お知らせ

[北播磨県民局令和8年度主要施策（案）](#)

[「東はりま文化午線」第49号作品募集（川柳・短歌・俳句・詩・随筆）（外部サイトへリンク）](#)

[北播磨の魅力を歩いて楽しむフットパスコース](#)

[北播磨PRマテリアル総選挙](#)

[YouTubeで北播磨の情報を発信中](#)

[北播磨地域ビジョン2050（令和4年3月策定）](#)

[（北播磨地域）移住の取組](#)

[（北播磨地域）ふるさとUターン求人情報について](#)

[ふるさと北播磨の宝もの](#)

[北播磨県民局加古川流域土地改良事務所](#)

[北播磨県民局加東土木事務所](#)



▲各県民局のトップページのバナー配置 （掲載：北播磨県民局）

県民局の取組と沿線市町の取組を紹介▶ （掲載：但馬県民局）

但馬県民局の取組

- 令和4年度／JRローカル線維持・利用促進ワーキングチーム(JR山陰本線／JR播但線)
- 令和5年度～／JRローカル線活用協議会(ワーキングチーム)(JR山陰本線／JR播但線)
- JRローカル線駅周辺活性化モデル事業(JR山陰本線／JR播但線)
- 夢但馬周遊バスたじまわる（外部サイトへリンク）

但馬地域鉄道利便性向上対策協議会

- 総会
- 次第 出席者名簿 配席図 第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案
- 豊岡車両基地見学会

各市町の取組

JR山陰本線及びJR播但線の維持・活性化のため、沿線市町では利用促進施策を実施しています。

- [JR山陰本線の取組一覧（PDF：1,305KB）](#)
- [JR播但線の取組一覧（PDF：1,301KB）](#)

市民・町民を対象とした鉄道利用助成制度も多数ございます。詳細は各市町のホームページをご覧ください。

豊岡市	公共交通利用促進 豊岡市公式ウェブサイト
養父市	公共交通 養父市
朝来市	鉄道 - 朝来市公式ホームページ
香美町	公共交通 香美町
新温泉町	鉄道 公共交通 くらし 新温泉町
神河町	交通 兵庫県神河町

JRローカル線利用促進イベントにかかる統一アンケート調査の実施

▶ 出発地や属性、頻度などを見える化し、検証を行うことで**より効果的なイベント事業の開催**へ繋げる。

山陰線(イベント名: _____)利用者アンケート調査

アンケート調査を実施します。お楽しみのところ申し訳ありませんがご協力をお願いします。

問1 あなたのことについてお答えください。(差支えない範囲で結構です)

1. 年齢 (_____ 歳代) 2. 職業 (会社員・学生・自営業・公務員・経営者・無職・ _____)
3. 自動車運転免許証 (あり・なし) 4. 自動車の保有 (あり・なし)

問2 どこからお越しになりましたか。

1. 自宅 2. 通学先 3. 通勤先 ※下記にて差支えない範囲で詳細を教えてください。
出発地 居住地(_____ 市) 施設名・企業名・学校名・(_____)

問3 どうやってお越しになりましたか。

1. 徒歩 2. 自転車 3. 自動車 (自ら運転) 4. 自動車 (送迎) 5. 原付・バイク
6. バス 7. タクシー 8. 鉄道 [乗車駅: _____]

問4 このイベントは何で知りましたか。 問5 来場理由に一番近いものを一つお答えください。

1. 広報誌 2. 新聞 3. 駅掲示 4. チラシ
5. 知人から 6. 行政HP・SNS (_____)
7. その他 (_____)
1. 内容が魅力的だったから 2. 鉄道が好きだから
3. 山陰線を活性化したいから
4. 地域を活性化したいから
5. 偶然通りかかった 6. その他 (_____)

問6 今後の開催に向けてそれぞれ一番近いものをお答えください。

- Q. 次回開催について ⇒ 1. 参加したい 2. 参加したくない
Q. 開催場所について ⇒ 1. 同じ場所がよい 2. 別の場所で開催してほしい
Q. 開催回数について ⇒ 1. 増やしてほしい 2. 同程度でよい 3. 減らしてもよい
自由記述(_____)

問7 今回のイベントの満足度をお聞かせください。

- 悪い ← 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 → 良い
自由記述(_____)

問8 あなたの 城崎温泉 駅～ 鳥取 駅間の利用頻度をお答えください。

1. 通勤・通学で利用している 2. 日常的に利用している 3. 週・月 _____ 日程度
4. 年に数日程度 5. 今日初めて利用した 6. その他 (_____)

問9 イベントを通じて 山陰線や沿線地域への興味・関心が高まりましたか。

1. とても高まった 2. 少し高まった 3. そうでもない 4. その他 (ご意見あれば記載ください)
(_____)

問10 城崎温泉 駅～ 鳥取 駅間に関するご意見やどのような取組があれば良いか教えてください。

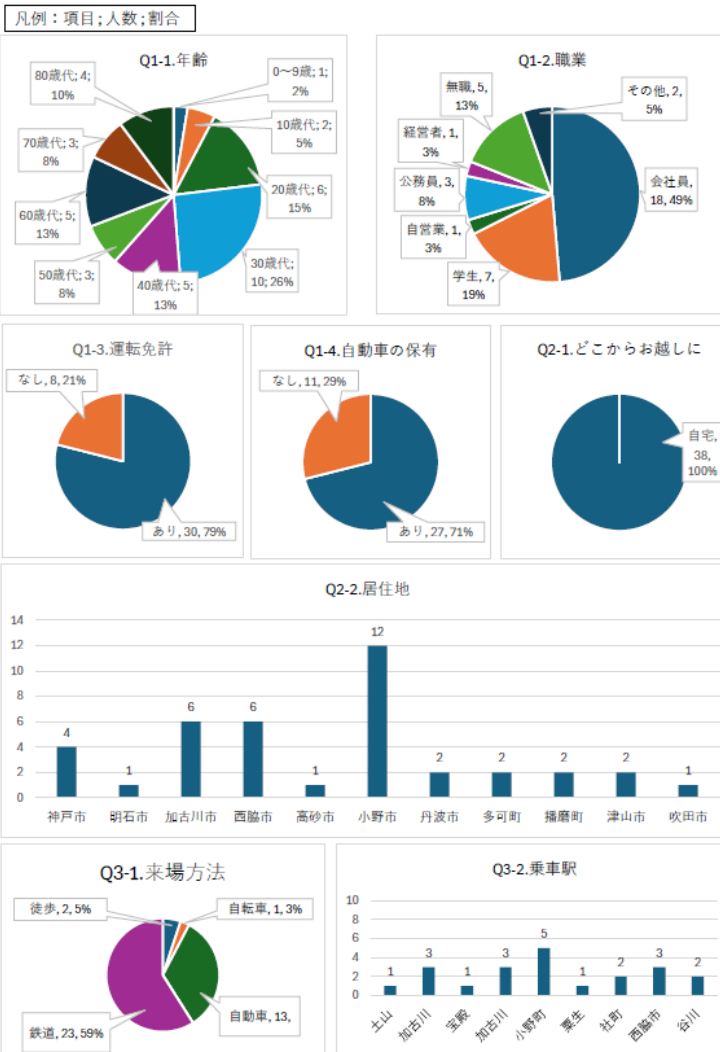
(_____)

調査にご協力いただき、ありがとうございました。

▲山陰線での実施アンケート用紙(路線毎に駅名等を変更)
※紙面・WEBどちらでも回答可能

集計結果例

イベント名 JR加古川線リレーマルシェ×空飛ぶランタン
開催日 2025/11/22
回答者数 39 人
アンケート結果 (1/2)



意見交換

閉 会